週刊 YEAR BOOK

1918 大正7年

日録20世紀

9|22
平成10年9月22日発行
(毎週1回火曜日発行)
第2巻第35号 通巻78号
平成10年7月31日第三種郵便物認可
¥560
講談社

日本軍「シベリア出兵」!

武者小路実篤、同志19人と「新しき村」建設!

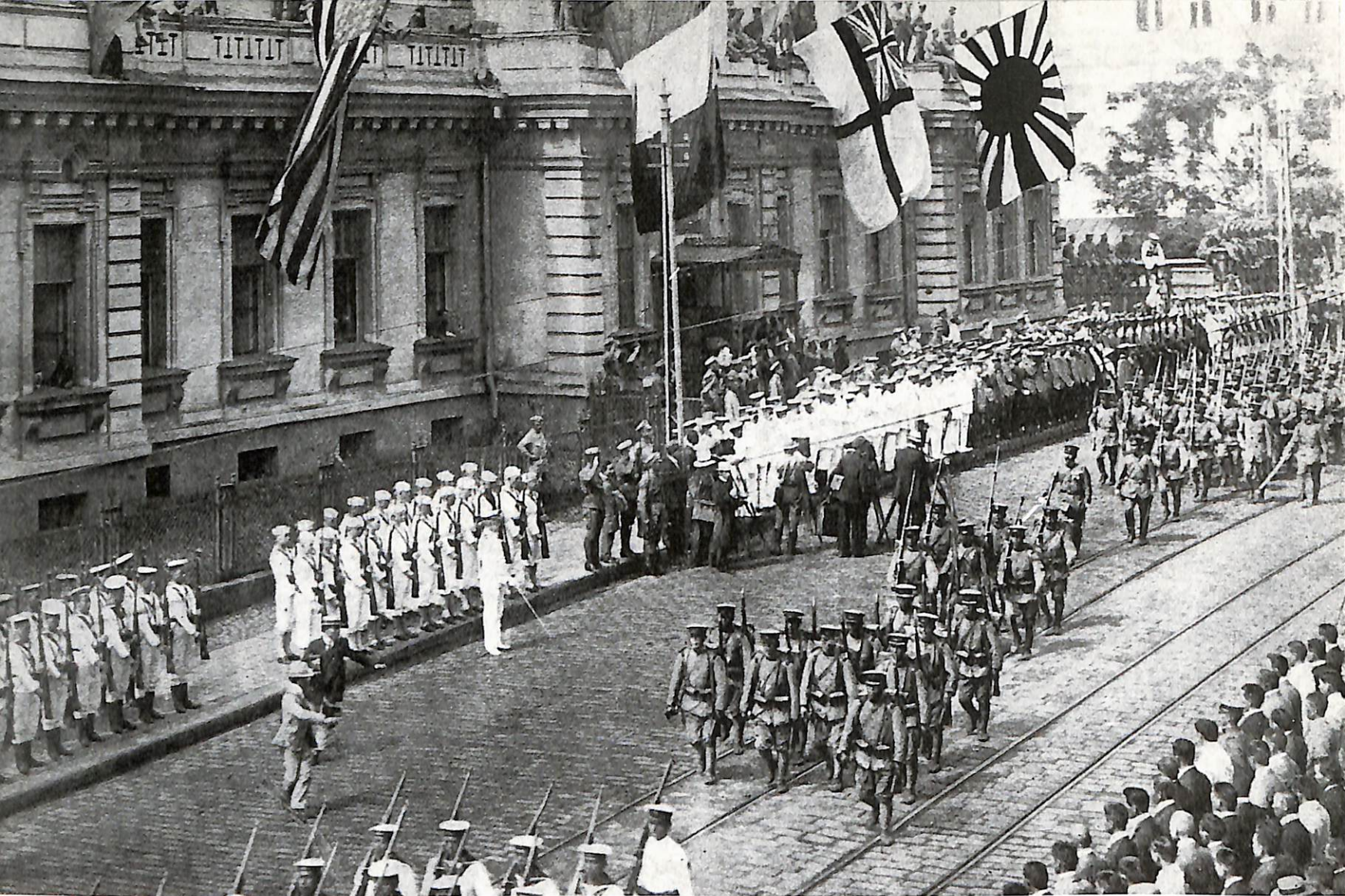
「米騒動」勃発! 富山県から全国に飛び火

「スペイン風邪」世界的流行で死者2500万人!

日本軍の戦費一〇億円、死者三五〇〇人
大陸支配の意図も露骨にロシア革命に干渉
「シベリア出兵」軍、ウラジオストク上陸！

▲シベリアのチタ近郊・オロワンナヤ機関庫で軍用列車整備に従事する日本人職工たち。大正8年4月23日撮影。「西伯利出征写真帖」

▲シベリアに出兵した連合各国軍兵士の軍装。左からアメリカ、カナダ、イギリス、中国、イタリア、チェコ、日本。

◎表紙　日本軍は8月12日から「シベリア出兵」を開始、10月までに7万3000人を派兵。写真は第14師団（宇都宮）の司令部の一同。「西伯利事変記念写真帖」防衛研究所提供

▲大正7年8月12日、第12師団第14連隊（小倉）がウラジオストクに上陸。チェコ軍、シベリア政府軍などが見守る中、閲兵式を挙行。「歴史写真」

第一次世界大戦末期の大正六年にロシアで革命が起こると、連合国諸国は干渉戦争に乗り出した。権益拡大のチャンスとばかりに、日本も大正七年、「シベリア出兵」を宣言。以後、四年間にわたって兵を送り続ける。しかし、三五〇〇人の犠牲者を出しながら、何の成果もなく、ただ各国の不信感を高めただけだった。

チェコ軍救出を名目に連合国の対ソ干渉戦争

「頭ーっ、右っ」

極東ロシアの〝玄関口〟、ウラジオストク市——。「捧げ銃」の礼でこたえる連合国軍の前を、軍靴の音を響かせて日本兵が続々と進んでいく。一万四〇〇〇人の「浦塩派遣軍」の先遣隊、第一二師団第三五旅団第一四連隊の一隊である。沿道には電柱や街路樹の上にまで市民があふれ、一隊が市の中心部（現在のアリュートスカヤ通り）付近の日本人街にさしかかると、ひときわ高く「大日本、万歳！」の声が沸き上がった。大正七年八月一二日、この日、「シベリア出兵」の本格的な第一歩が印されたのである。

前年の一一月に勃発したロシア「一〇月革命」は、全世界に衝撃を与えた。中でも英仏など、第一次世界大戦を継続中の連合軍にとって、ドイツと単独和平を結び、帝国主義・資本主義を真っ向から否認したソビエト・ロシア政権の出現は容認できるものではなかった。また満州（中国東北部）、朝鮮でロシアと対峙する日本にとっても、国体＝天皇制とあいいれない社会主義革命の、シベリアへの波及は重大な脅威であった。

英仏は、ウラジオストク集積の軍需物資がソビエト政権側に流出するのを阻止することを理由に、大正六年一二月末、日米にウラジオストク派兵を提案。翌七年三月九日には北ロシアのムルマンスクに英軍が上陸、反ソビエト勢力を支援する。日本も、この年一月、居留民保護を口実に、ウラジオストクへ軍艦「朝日」（一万五二〇〇トン）、「石見」（一万三五一六トン）を派遣。四月四日、同市で日本人経営の「石戸商会」が、五人のロシア人に襲撃され、日本人三人が殺傷されると、海軍陸戦隊五三三人を上陸させた。

しかし日本は、八月になるまで本格的な「出兵」に踏み切らなかった。その理由を『シベリア出兵の史的研究』の著者・細谷千博氏は、次のように語る。

「大陸での勢力拡大のきっかけを日本に与えることを警戒し、アメリカは当初、出兵には消極的でした。一方、日本の政府内にも、『出兵』によって日米関係に亀裂が入ることを危惧する声があった。そのため政府は、アメリカの態度がはっきりしないことに逡巡していたのです」

ところが五月一四日、対ソ干渉戦争の絶好の口実となる「チェリャビンスク事件」が勃発する。帝政ロシアの一部隊として戦い、休戦のためシベリア鉄道を東進中だったチェコ軍団と、ソビエト・ロシア軍が衝突したのである。連合国軍事委員会は「チェコ軍団救援」を名目に、米政府に干渉軍の派遣を要請。「日米双方七〇〇〇人ずつの共同出兵」という米側の提議を受け、八月二日、寺内正毅内閣は「シベリア出兵」を宣言した。

日本軍の戦費10億円、死者3500人
大陸支配の意図も露骨にロシア革命に干渉
「シベリア出兵」軍、ウラジオストク上陸！

権益拡大に固執し不信を招いた日本

しかし日本の「出兵」は、「さしあたり一万二〇〇〇の範囲に於いて」としながらも、「チェック（チェコ）軍支援の為、浦塩以外に出動し、且つ形勢の発展に伴い増援するの必要あるべきを予想」する"玉虫色"のものだった。日本にとって、ロシア革命は脅威であると同時に、北満州・シベリア方面に対する権益拡大の絶好のチャンスだったのである。

事実、国内でも陸軍を中心に大規模「出兵」論が巻き起こっており、大島健一陸相（六〇）は「当面七個師団を沿海州・↖

シベリアに派遣し、さらに六個師団の出動を準備する」と主張していた。またソ満国境からのザバイカル州侵攻も念頭においた陸軍は、すでに五月一六日、中国の段祺瑞政権との間に「日華陸軍防敵軍事協定」を締結。北満州方面への「出兵」の地ならしもすませていたのだった。

大正七年の九月になると、各地で日本軍の進撃が始まる。九月五日にはハバロフスクを占領。九月一八日には、アムール州のブラゴベシチェンスクを。さらにコサックの頭目・セミョーノフを後押しして、満州方面からザバイカル州に侵攻し、九月八日に州都・チタを占領する。この頃、七万三〇〇〇人に急増していた日本軍は、秋までに、バイカル湖以東の東部シベリア三州を制圧したのである。

しかし大規模出兵によって軍事費は膨大な額にのぼり、この年の国家予算の五一%を超えるほどになっていた。寺内内閣に代わった原敬内閣は、大正七年末、二万五〇〇〇人にまで兵力を削減することを決定するが、「出兵」国の中で最大の兵力であることに変わりなかった。

こうした日本の姿勢は、国際社会で批判のまととなる。大正八年一二月には反ソ派のコルチャック政権援助のため、兵力増派をアメリカに提議するが拒否される。そしてアメリカは一方的に撤兵を通告し、大正九年四月一日、撤兵を完了した。一方の日本は同年三月三一日「我ガ接壌地方ノ政情安定シテ鮮満地方ニ対スル危険除去セラレ」るまで出兵を続けると、あくまでもシベリア利権の獲得に固執した。しかし大正八年末までには、ほかの干渉軍もシベリアを去っており、日本は国際社会の中で孤立したのだった。

「勢力圏拡大という当初の野望ははたせず、各国の不信を高めただけの『シベリア出兵』は"無名の師"（理不尽な出兵）でした。陸軍もその点は自覚していたはずです。だからこそ、一般人はおろか、軍人にすら本当の姿を伝えようとせず、その後の大陸政策にまったく教訓が生かされなかったのです。また、日本軍が行った数々の残虐行為に対するシベリアの住民の恨みは根深く、今日にいたるまでぬぐい去られていないのです」（前出・細谷氏）

「シベリア出兵」は、結局、大正一一年一〇月まで続けられた。撤兵までの約四年間で、一〇億円の軍事費をついやし、死者三五〇〇人という犠牲を国民に強いただけで、日本軍はシベリアを後にしたのだった。

▲大正8年8月14日、シベリアの寒村・マルシェフスキー村で、日本軍の討伐隊が押収した銃器。撮影者の記録には「午後5時20分　天候曇」とある。「西伯利出征写真帖」

毎日新聞社

▲連合軍は8月23日、ハバロフスクに進撃を開始。日本軍騎兵は9月4日、軍用列車を奪って同地に入る。

残虐行為で支持を失った反ボルシェビキ政権

干渉軍上陸によって、一時、シベリアのソビエト勢力は後退し、代わって反ソビエト政権が次々に樹立された。コサックの頭目・セミョーノフは、東シベリアに自治政府樹立をもくろむ日本軍の援助のもと、ザバイカル州に侵攻。大正7年9月、州都・チタにおいて臨時シベリア政府を樹立する。一方、元海軍提督のコルチャックは11月18日、イギリス軍の支援のもと、オムスクの全ロシア臨時政府の政権を掌握。「全ロシア最高執政官」を称し、一時はウラル山脈を越えて勢力を伸張した。しかし両者とも残虐行為を繰り返したため、住民はもとより、連合国からの支持も次第に失っていく。

コルチャックは、大正8年春以降、ボルシェビキの攻勢の前に後退を続け、10月11日にオムスクを放棄。大正9年2月7日、パルチザンに銃殺された。また日本が援助を中止したセミョーノフも、大正10年9月14日、上海へ亡命。太平洋戦争中は、関東軍のもとに白系ロシア人部隊を組織したが、終戦後ソ連軍に捕らえられ、昭和21年処刑された。

▶セミョーノフ（右）と彼を支援した黒木大尉。セミョーノフは、大正七年、シベリアのザバイカル州に反革命地方政権を樹立する。

「歴史写真」

▶大正八年二月二五日、シベリアのユフタでパルチザンに包囲され、田中支隊三五〇人が全滅。写真は田中支隊長戦死の地に拝礼する日本軍将校。

富山から全国に飛び火、検挙者数万人の民衆蜂起
“東水橋の暴れ婆”三人が口火を切った
「米騒動」勃発！

▶この年8月13日夕刻、岡山市で2万人の群衆が市内の米穀商を片っ端から襲撃、同夜11時頃、富豪・沢田政文方本社に乱入して放火、隣接した岡山精米会社ともども全焼させた。写真は同焼け跡。

「歴史写真」

大正七年夏、日本中を揺るがした米騒動の発端は、積み出し港で働く女性の（陸）仲仕たちの抗議行動だった。富山湾沿岸で火がついた貧民の“怨嗟の声”は、県外へ飛び火。全国三三市、一〇四町、九七村以上におよぶ暴動へ変わってゆく。「米一升三五銭に」の合い言葉が、米商・地主や資本家への憤懣を爆発させ、大正期最大の民衆蜂起へ発展したのである。

発端時の指導者は“東水橋の暴れ婆”

「米をよそ（他県やほかの町）へやるから高くなるがだちゃ。ジョーキ（汽船）に米を積ませんようせんまいけ」――。

大正七年、富山県中新川郡東水橋町（現・富山市）では、七月初旬から積み出し港で働く女仲仕が、毎夜のように集まっては米の高騰について話し合っていた。

その場を仕切っていたのは、“いよんさのおばば（水上伊右衛門の妻）”を筆頭に、漁民や船乗りの妻三人。当時五〇歳前後だった彼女らは、若い女仲仕たちに次のように細かく指図したという。

「警察に弾圧の口実を与えぬよう、押しかける米問屋へは危害を加えるな」

こうした指示を受け、女仲仕二十五、六人が東水橋町の米問屋・高松へ毎晩のように押しかけては、「米を北海道へやらんといてくれ」と叫んだのである。

“東水橋の暴れ婆”の異名を取る女性三人が指揮した、米の移出阻止運動の噂は広まり、隣町の西水橋町（現・富山市）と滑川町（現・滑川市）へ波及する。

七月一八日には、富山県下新川郡魚↖

▲米騒動は全国に波及、政府は軍隊も繰り出した。写真は、8月12日、名古屋に出動した騎馬憲兵。 「歴史写真」

津町（現・魚津市）で、女性たちが北海道との往復汽船「伊吹丸」に近づいて騒ぎだした。さらに二三日になると、「米を他へ輸出してわれわれを困却せしめなば、竹槍を以て突き殺すから左様心得よ、おそろしき権幕に各店主も恐怖の念にたえず警察署に届出たれば、コハ一大事と警察官直に駆けつけ……」（「北陸タイムス」七月二四日）と、騒動は過激になっていく。

騒動の烽火があがった富山県の海岸地帯は、明治以来、米騒動の多発地域だった。米の積み出し風景を見せつけられる都市漁民であるうえに、日持ちしない鮮魚では、米価に対抗して値を釣り上げられなかったからである。大正七年は第一次世界大戦による物価高で、米を運ぶ汽船が現れるたびに、女仲仕たちが「また米が高なるがいね」と話し合っていた。

意外なことに、こうして起きた米騒動の真相が知らされることは少なかったと語るのは、米騒動研究にたずさわる歴史科学協議会委員の井本三夫氏である。

「魚津町の主婦による七月二三日の井戸端会議が発端という、誤った説が流布されてきたからです。これは、七月の米騒動の関連資料を系統的に集めなかった学者・細川嘉六の説にたよっていたため、警察の隠蔽工作があったのを見破れなかったことがおもな原因です。警察は、七月初旬の東水橋町の女仲仕による組織的な抗議行動などについて隠し続けた。『婦女三、四名が井戸端に於て談合』というささやかな印象を与える発表を繰り返したのです」

ところが、警察の思惑とは裏腹に「県

▲滑川での米の積み出し風景。富山県内での騒動は、滑川町でクライマックスを迎えた。 滑川文化センター提供

外への移出禁止！」という女性労働者の叫びは、富山県の海岸一帯に波及（一五市町村、発生件数三二）。このニュースが伝わると、各地で暴動を誘発し、"大正期最大"の民衆蜂起を招くことになる。

◀大正7年8月、米騒動勃発時に最初に行動を起こした富山県東水橋町の女仲仕の指導者、"いよんさのおばば"こと水上ノブ（左）。
井本三夫提供

米騒動に連動した賃上げストライキ

米騒動が最初に飛び火したのは、八月九日の岡山県津山町、和歌山県湯浅町などで、一一日には、大阪の天王寺で開かれた米価調節市民大会に一万人が結集。腰巻き姿の女性たちが籠を手に、「米一升二五銭で売れ」と、市内を叫び歩いた。

さらには、政府や資本家に批判的な大手・地方新聞の影響もあって、八月一五日までに、名古屋・京都・神戸・広島といった主要都市に驚異的な速さで伝播。賃上げのストライキも多発する。

三菱造船所の労働者によるストライキが、当時の大商社、鈴木商店焼き打ち事件などの暴動に発展した神戸では――、

「鈴木商店の元本宅が焼かれ、細民をいじめ続けた貸家管理所の兵神館、鈴木の兵庫精米所が焼かれ、鈴木の代弁新聞"神戸新聞"の三層楼が焼け落ち、吹上脇の神戸製鋼所、神戸信託も灰となった。（中略）湊川公園では、野天演説が始まっている。後ろ鉢巻、白縞の袴、日本刀を振りあげ、『寺内内閣を倒せ、富豪を×××××。米俵を隠す某寺へ押寄せるのだ』と熱弁をふるうのである」

「報知新聞」の記者だった鈴木茂三郎（戦後は日本社会党委員長）は、『大正七年の米騒動回顧』でそう振り返っている。

日本中の人々を米騒動に駆りたてたのも無理はなかった。この年の米の小売り価格は、一升五〇銭と第一次世界大戦前の四倍以上。それに物価高も加われば、日の丸弁当にもこと欠く庶民（労働者の平均日給は九二銭）が、投機で高騰を招いた商人、資本家を恨むのは当然だろう。

そこで、輸出で米価を釣り上げていた財閥は、民衆の動きに神経をとがらし、全国救済金（三井、三菱が各一一〇万円、鈴木商店は五〇万円など）を寄付。一方、政府も、八月末に物価調整令を公布したが、効果はなく、物価の高騰は続いた。

「大正七年の米騒動も、大戦景気による物価騰貴に加え、『シベリア出兵』を利用した米の投機が直接の原因でした。これは、国際条件の変動が日本の近代化を左右したという意味で、黒船が維新を誘発して半封建資本主義を形成した幕末維新期に続く二回目のことと言っていい。

ただしこの時は、第一次世界大戦で工業などの資本主義的側面が膨張し、地主制度に象徴される封建的側面との矛盾が拡大して米騒動になったのです」（井本氏）

結局、散発的に一一月末まで続く空前の"民衆蜂起"がおよんだのは……市、一〇四町、九七村以上。検挙者は数万人、起訴されたもの七七〇八人にのぼった。

寺内正毅内閣は、米騒動によって九月二一日に総辞職し、初の政党内閣・原敬内閣が誕生。この後、自由主義の風潮は高まり、労働運動などのさまざまな大衆運動が一斉に花開くことになる。

◀この年八月一四日、白米の巡回販売をする東京・下谷青年義勇団。東京では、八月一三日に騒動が起こり、銀座から蠣殻町方面の商店が襲われた。
「歴史写真」

女たちの肖像

李朝皇太子との結婚に勅許！ "日韓融合"の美名に操られた 梨本宮方子の愛と流転の人生

稲葉真弓

「悲劇の王妃」「流転の王妃」と呼ばれた元皇族、梨本宮守正の長女・方子（一七）と李王朝最後の皇太子・李垠殿下との結婚に勅許が下ったのが、この年、大正七年の一二月五日のこと。方子は女子学習院中等科三年生だった。

現・皇太后の従姉妹にあたる彼女は、当時、皇太子（後の昭和天皇）のお妃候補の一人として話題の人だった。それが一転して李垠に嫁ぐことになったのは、朝鮮半島侵略をねらう軍部の策略があったからである。李垠はわずか一〇歳で日本に留学させられていたが、体のよい人質だった。明治四三年、日韓併合による朝鮮半島の植民地化が始まると、李垠は日本の皇族並みに王族として扱われ、結婚もまた皇族扱い。方子は日韓融合のシンボルという美名のもと、政略結婚の犠牲になったのである。

彼女は自分の婚約を新聞記事で初めて知ったという。明治三四年、東京・麹町の敷地二万坪の宮家に生まれた彼女は、幼時から一人での外出を許されず、学校に行く時も人力車で侍女と一緒。一度電車に乗ってみたいと思いつつ、のびやかに育った。そこに寝耳に水のニュース、相手に会ったこともない結婚話だった。

挙式は大正九年四月二八日。李垠の父・高宗の死により、一年余延期されての婚礼の儀だった。この期間を方子は「殿下との間に次第に愛が芽生え、互いに理解して結婚することができた」と述べている。

夫妻は、東京・麻布で新婚生活を送り、翌一〇年長男・晋誕生。しかし晋は、結婚の挨拶のため訪韓中に生後七ヵ月で急死。毒殺との噂が流れるほど不審な死だった。

後に方子はもう一子、玖をもうけるが、さらなる悲運は終戦後の日々にあった。邸（現・赤坂プリンスホテル旧館）を追われ、昭和二二年には皇籍離脱、平民となったため、たけのこ生活を強いられる。夫は韓国に戻ることを許されず、無国籍状態。李垠が帰国を許されたのは、"人質"となってから五六年後の昭和三八年のことだった。

すでに脳血栓で寝たきりになっていた李垠は、四五年五月死亡。しかし、方子は日本に帰らなかった。ソウル市内で夫の遺志だった福祉事業に専念、社団法人「慈行会」を創設したほか、身障者のための施設を運営した。結婚によって時代の波に翻弄された彼女が死を迎えたのは平成元年四月、八七歳。最期の地もソウルだった。

▶大正九年、一八歳で李王朝の皇太子・李垠に嫁ぐ。

勝者・敗者

"無敵"のサッカーチーム！「日本フットボール大会」で御影師範の七連覇スタート

阿部珠樹

大正六年の極東選手権に、サッカーが取り入れられたことは、国内の関係者を大いに刺激した。大学、中学にクラブはできていたものの、野球の隆盛に比べれば、日本のサッカー熱はマッチの火ほどの小さなもの。しかも、初めての国際試合となった極東選手権でも、中国、フィリピンに連敗、とりわけ、優勝した中国には五対零の完敗だった。

これではいかん。外国に敗れて初めて目がさめるあたりは、今の日本のスポーツ界とさほど変わっていないが、何とかサッカーをさかんにしなければという動きが、選手、指導者たちの間に高まった。

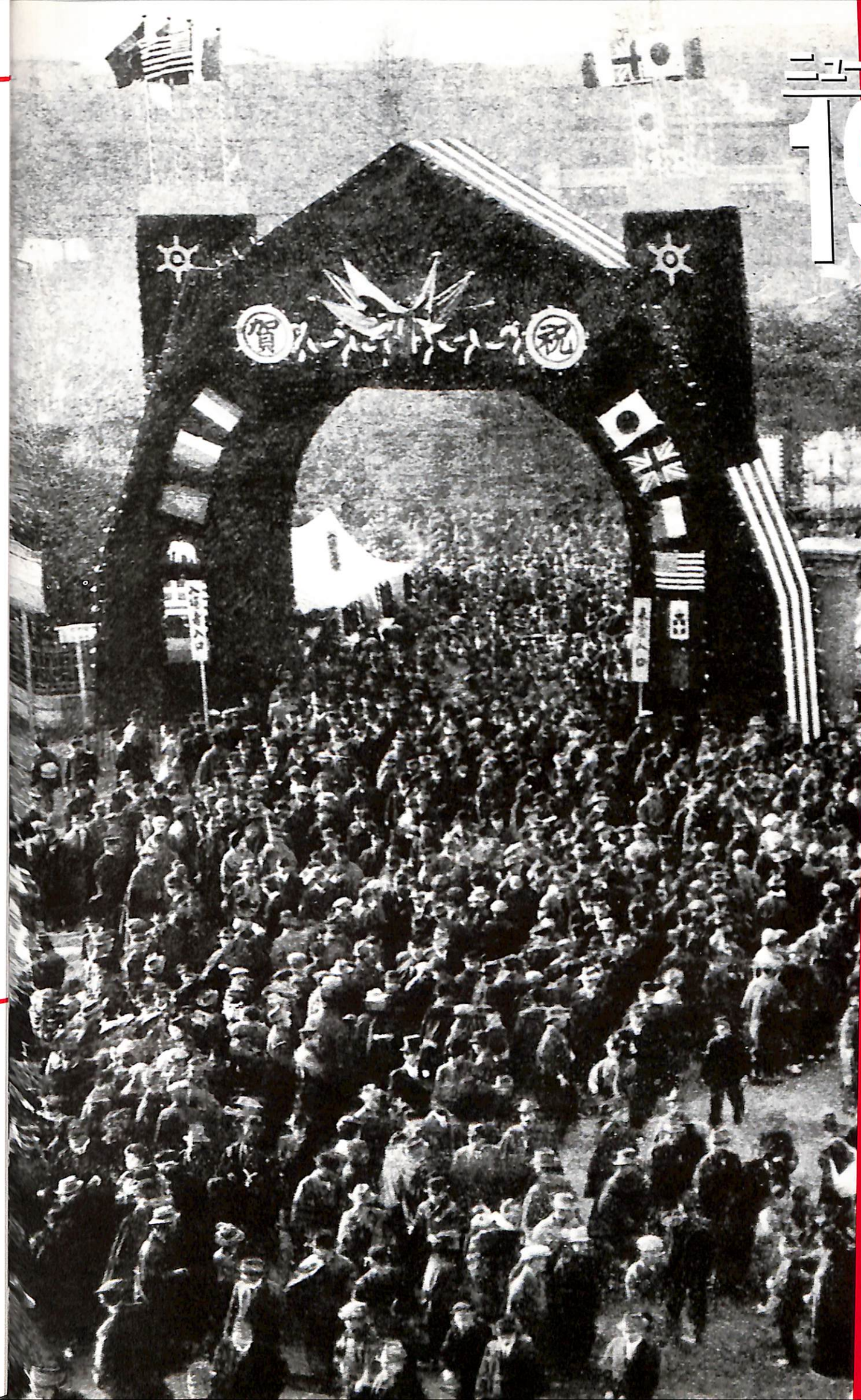
この動きにすばやく呼応したのが、マスコミである。大阪毎日新聞社（大毎）は、極東選手権の翌年、つまり大正七年の一月一二、一三日の二日間にわたって、第一回の「日本フットボール大会」を開いた。フットボールと言ったのは、サッカーとラグビーの二つの競技を行ったからで、二競技同時は、それだけ両競技の裾野が小さかったことを示している。

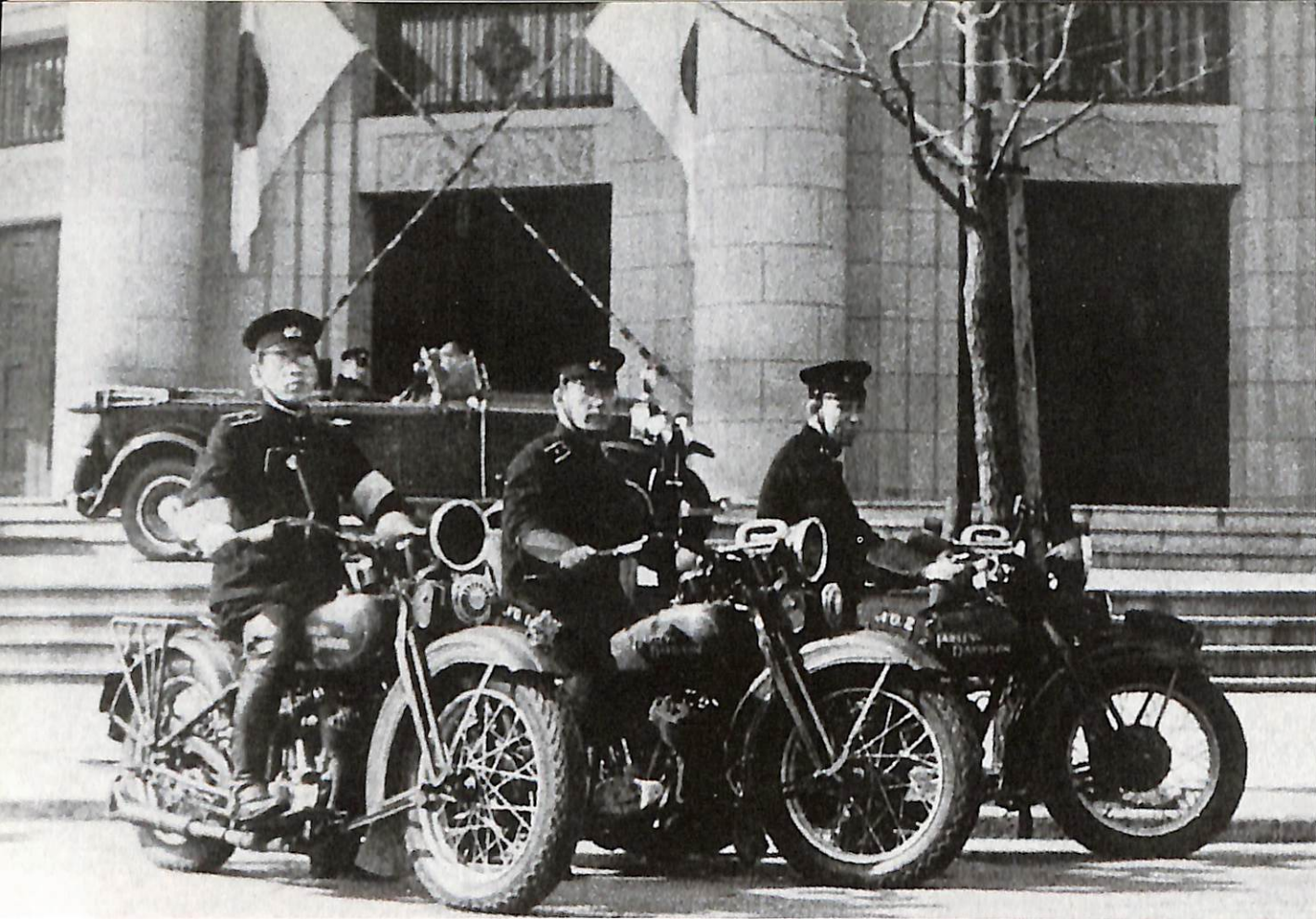
ラグビーは同志社が優勝。中学、師範学校のチームが参加したサッカーは、神戸の御影師範が大阪の明星商業を一対零で破り、優勝した。この大会のサッカー部門は、後の全国中学大会、現在の高校選手権へと発展していく。

栄えある初代の優勝チームとなった御影師範は、日本のサッカー史を語るうえで忘れられない名前である。日本フットボール大会で、第一回から第七回まで七連覇、さらに全国中学大会を合わせて優勝一一回は、いずれもいまだに破られぬ大記録。帝京が強い、いや清水商業がなどと言っても、この御影師範を越える無敵の高校チームは現れていないのだ。

日本フットボール大会の三年後には大日本蹴球協会が設立され、日本選手権となる天皇杯が行われるようになった。こうしてみると、御影師範の優勝した第一回日本フットボール大会は、日本サッカーの夜明けを告げる大会だったと言える。

▶この頃、無敵を誇った御影師範サッカー部。写真は大正二年に撮影のもの。
五島祐次郎提供

▲警視庁に「赤バイ」登場(1月1日) 自動車事故急増に対処するため、インディアンなど6台を配備。赤色に塗装され、制限時速10マイルを超えた車を追跡した。

毎日新聞社

▲皇太子妃に久邇宮良子さん内定(1月14日) 皇太子は大正5年に立太子礼を終え、東宮御学問所で「帝王学」を学習中の16歳、良子女王(写真)は14歳だった。ご成婚は大正13年1月。

▼横綱太刀山、引退(1月26日) 東京・九段の招魂社相撲場で、引退相撲を興行。写真は最後の綱姿。長身から繰り出す双手突きは威力があった。40歳。

「歴史写真」

毎日新聞社

▲日本、ロシアに「砲艦外交」(1月12日) 居留民保護を名目に、ウラジオストクに軍艦2艦を派遣してロシアを威圧、「シベリア出兵」への道を歩み始めた。

「歴史写真」

▶東北・北陸に豪雪(1月) 雪崩などにより、新潟県三俣村で157人、山形県大鳥鉱山で150人が死亡するなど、惨事が続出した。写真は新潟県小千谷で。

▼ロシア革命政権に赤軍誕生(1月28日) 「10月革命」で組織された赤衛隊を受け継ぎ、正規軍を創設。2月には対独戦に活躍した。写真は閲兵するトロツキー。

大正7年1月

1(火) ●警視庁、交通取締りに「赤バイ」を導入。

2(水) ●英、空軍省を設置。

3(木) ●オーストリア全土で反戦スト(16日大規模化)。

4(金) ●政府、居留民保護を理由に、軍艦二隻のウラジオストク派遣を決定(12日出航)。

5(土) ●海軍が気球隊の新設を準備中、と新聞に。

6(日) ●内村鑑三、キリストの再臨と最後の審判による世界平和を説く「再臨運動」を開始。

7(月) ●陸羽線の防雪工事現場で雪崩、五人死亡。

8(火) ●ウィルソン米大統領、「平和のための一四ヵ条」を発表、新しい国際秩序の構築を呼びかけ。

9(水) ●各地で寒気強く、東京で零下八・二度を記録。

10(木) ●横浜正金銀行、ラングーン支店開業。

11(金) ●東京に日本初の簡易食堂、一食一〇銭で開業。

12(土) ●大阪の豊中で第一回日本フットボール大会。ラグビーは同志社、サッカーは御影師範優勝。

13(日) ●東京で自動車による道路損壊が激増し、自動車税増率の動き、と新聞に。

14(月) ●皇太子妃に、久邇宮良子女王が内定。

15(火) ●米国視察を終えた横井時敬農学博士が、大戦参戦後の米国では食料品価格が五割高と報告。

16(水) ●米国燃料庁、石炭節約のため、ミシシッピ川以東の工場に、軍需以外の生産活動を禁止。

17(木) ●米国砲艦が揚子江で中国軍の砲撃受ける。

18(金) ●文官高等試験を行政・外交・司法の三科とする。

19(土) ●理科教育研究会が発足式。

20(日) ●国画創作協会、発会式。小野竹喬・村上華岳ら。

21(月) ●政府・日銀、英大蔵省証券八〇〇〇万円を引き受け発行。

22(火) ●キエフでウクライナが独立宣言、ロシア・ソビエトからの離脱はかる。

23(水) ●第三回全露ソビエト大会開催、ロシアは社会主義ソビエト共和国であると宣言。

24(木) ●独など、英米の休戦提案を拒否。

25(金) ●岐阜県坂下村が豪雪で孤立し、餓死者多数。

26(土) ●農商務相、津市の米商・岡半右衛門の米の買い占めに戒告処分。暴利取締令の初適用。

27(日) ●フィンランドでボルシェビキ主導のスト発生。

28(月) ●各地米穀取引所、暴利取締令に抗議して休業。

29(火) ●大分県佐賀関沖で大阪商船の「那覇丸」が座礁・沈没、乗員乗客四一人が行方不明。

30(水) ●物価高が軍隊直撃、一日九銭三厘の副食費で主計官は栄養維持に四苦八苦、と新聞に。

31(木) ●京都市会議員、「議員買収費横領」で収監。

ニュース・ファイル

1918

フォト+日録で再現する365日

第一次世界大戦に終止符が打たれたこの年、世界中がスペイン風邪の猛威に襲われた。日本は米騒動とのダブル・パンチ。大火も相次いだ。そんな中、大阪では松下幸之助が町工場を開業、東京には初の本格的オフィスビル「東京海上ビルヂング」が建設された。

◀日比谷公園で休戦祝賀会(11月21日) 水兵の叛乱で始まったドイツ革命は、西部戦線で総崩れの独軍の息の根をとめた。11日、休戦協定が調印されて第1次大戦がついに終結。世界中に歓声が沸き起こった。

「歴史写真」

▲芥川龍之介、結婚(2月2日) 新妻は跡見女学校卒の塚本文さんで18歳、芥川は25歳だった。3月に鎌倉に新居を移し、「地獄変」「蜘蛛の糸」などの傑作を次次と発表・刊行した。

◀野菜安売りに殺到(2月24日) 大戦景気が激しい物価騰貴を生み、前日、警視庁は「東京の飢餓線上の細民は13万人」と発表。写真は四谷の慈善市。1把10銭の大根が、飛ぶように売れた。

「写真タイムス」

▶憲法発布祝賀会で大乱闘(2月11日) 東京・上野公園で、30周年を祝う国民大会開催。デモに移ろうとしたとたんに警官隊の阻止にあい、17人が検束された。

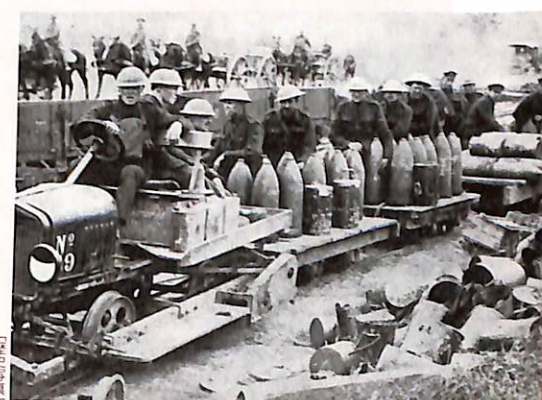
「歴史写真」

▼カウボーイショー公開(2月6日) 投げ縄、射撃の名手として著名な牧童が米国から来日。東京の有楽座で、女性の頭上の蠟燭の炎を撃つなどの妙技を見せた。

「歴史写真」

▼「類猿人ターザン」、米国で封切(2月14日) バローズ原作のヒーローをS・シドニー監督が映画化。主演はエルモ・リンカーン(右)とエニッド・マーキー。

児玉数夫提供

「歴史写真」

▲独軍の攻勢に備える英軍(2月) 東部戦線で優位に立った独軍は、西部戦線でも大攻勢に出ようとしていた。対する連合軍は、陣地構築や武器・弾薬の集積に大わらわ。

大正7年2月

1(金) ●栃木山、横綱免許。
●米価が取引所設立以来の高値つける。一石二五円四七銭。
2(土) ●世界的な木材不足を見こし、三井物産が日本・朝鮮各地で森林を土地ごと買い入れと新聞に。
3(日) ●「ニューヨーク・タイムズ」紙が宅配を開始。
4(月) ●英政府、アラブ人の独立を誓約する宣言発表。
5(火) ●東京で、第一回人種差別撤廃期成大会開催。
6(水) ●英、選挙法を改正し、女子に参政権。
7(木) ●東京でガスの需要が急増、圧力低下が問題化。
8(金) ●欧州派遣の米将兵のための新聞「スターズ・アンド・ストライプス」創刊。
9(土) ●衆院予算委で、八幡製鉄所をめぐる汚職が問題化(2月18日、同所長官・押川則吉が自殺)。
10(日) ●船舶不足の米国で新造船所三ヵ所がまもなく完成、職工六万人を募集、と新聞に。
11(月) ●憲法発布三〇年大会で、参加者と警官が衝突。
12(火) ●ブロードウェーで、石炭節約のため劇場閉鎖。
13(水) ●米国が輸入制限との情報で、商品・株式が暴落。
14(木) ●米国で映画「類猿人ターザン」封切。
●ガーシュインのヒット作「スワニー」が初めて演奏される。
15(金) ●東京の田町—品川間の複々線開通、山手線と京浜電車の分離工事が進展。
16(土) ●リトアニア、独立を宣言(以後、エストニア・ラトビア・グルジアなども続く)。
17(日) ●西郷隆盛・高杉晋作など「勤王の志士」の人気を集めた祇園の芸者・君尾が死去。七五歳。
18(月) ●独、休戦中のロシアへ侵攻、圧力かける。
19(火) ●メキシコ、石油の国有化を宣言(英米が抗議)。
●ソビエト政府、土地社会化法公布。
20(水) ●住友銀行ニューヨーク出張所が営業開始。
21(木) ●朝鮮総督府、朝鮮の伝統的初等教育機関「書堂」を監督下におく。
22(金) ●住友鋳鋼所、本多光太郎・高木弘が発明した永久磁石鋼「KS鋼」の特許を取得。
23(土) ●独軍侵入の危険から、ペテルブルグの内田大使らが引揚げ。熊崎領事ら数人残留。
24(日) ●物価高で俸給生活者の生活苦が深刻化、特に小学校教員は物価手当もなく窮迫、と新聞に。
25(月) ●「東京朝日新聞」社説が「シベリア出兵」に警告。
26(火) ●下級船員団体、一律五割増給を要求。
27(水) ●香港の競馬場で火災、一〇〇〇人以上が死亡。
28(木) ●仏大使、日本のシベリア単独出兵に同意。

「歴史写真」

▲碓氷峠で列車逆走(3月9日) 信越線横川駅を発車、軽井沢に向かう途中の11両編成の貨物列車が、電気機関車の故障で急勾配を逆走。線路を破壊して、脱線・転覆、死傷者8人を出した。

▲東京・日本橋に白木屋新館完成(3月) 三越と並称される江戸中期以来の老舗が、モスク風尖塔のある3階建てデパートとして再出発。木田保造設計。大正12年の関東大震災で焼失した。

▲「松下」スタート(3月7日) 24歳の松下幸之助(写真)が、大阪の木造2階建て借家に「松下電気器具製作所」の看板を掲げ、配線器具の製作を開始。従業員は妻と義弟の二人だけ。

ROGER-VIOLLET/ユニフォト・プレス

▲ロシアが単独講和、連合国の一角崩れる(3月3日) ポーランドのブレスト・リトフスクで行われていたロシアとドイツの交渉が、ついに決着。革命により混乱するロシアの、事実上の降伏だった。

「写真タイムス」

▲水戸で大火(3月25日) 午前10時頃、荒物商宅から出火、わら葺き屋根が多く瞬時に燃え広がった。焼失家屋は裁判所、郵便局、新聞社などを含む1100戸。汽車の発した火の粉が原因だった。

▶ロシアの日本大使館引揚げ(2月23日) 「10月革命」で混乱中のロシアへ独軍が進撃、駐露大使・内田康哉は、館員とともに、危険が迫ったペテルブルグを去った。写真は、翌月東京駅に到着した内田。

「歴史写真」

大正7年3月

1(金) ●ソビエト政府とフィンランド、友好条約調印。
2(土) ●東京市の野菜廉売に、市民が殺到し大混乱。
3(日) ●露が単独講和を選択し、独とブレスト・リトフスク条約に調印。露が事実上の降伏。
4(月) ●横浜市の青果組合、県に公設市場設置を陳情。
5(火) ●日本郵船が欧州航路船の武装を強化と新聞に。
6(水) ●ロシア社会労働党、ロシア共産党と改称。
7(木) ●松下幸之助、「松下電気器具製作所」を創業。
8(金) ●高岡市の米穀取引所で買い占めめぐり乱闘。
9(土) ●露の単独講和に対抗、英軍がムルマンスクに上陸(8月、アルハンゲリスクにも上陸)。
10(日) ●ハルビン駐在の佐藤総領事、ロシアの反革命派への武器・兵力援助を政府に要請。
11(月) ●英仏伊三国、日本にシベリア鉄道占領を要請。
12(火) ●大正七年度予算成立。「八六艦隊」実現のため、六年間で二億五〇〇〇万円を追加。
13(水) ●宮城県大河原町などで大火、二〇〇戸焼失。
14(木) ●警視庁、無資格開業の歯科医三〇〇人を検挙。
15(金) ●元老・山県有朋、「シベリア出兵」は時期尚早と寺内首相に覚書。
16(土) ●有島武郎、「生れ出づる悩み」を新聞連載開始。
17(日) ●張作霖の娘・首芳が、お茶の水高等女学校入学のため来日。
18(月) ●兼松商店、株式会社に改組。
19(火) ●小学校教員の増俸が決定、東京では初任給月額二〇円が二五円に。
20(水) ●東京・不忍池畔で電気博覧会開催。
21(木) ●独軍、西部戦線で攻勢、連合軍の戦線を分断。
22(金) ●汚職で揺れる八幡製鉄所、工員不足で二〇〇〇人規模の大募集。
23(土) ●所得税や酒類の増税を規定した改正法と戦時利得税法が公布される。
24(日) ●独軍、長距離砲でパリを砲撃。
25(月) ●水戸市で大火、一一〇〇戸焼失。
26(火) ●ソビエト政府、ロシア領内で独軍と戦ってきたチェコ軍のシベリア経由帰国を許可。
27(水) ●市町村義務教育費国庫負担法公布。小学校教員の俸給を、国が最低一〇〇〇万円負担。
28(木) ●内務省、官吏増俸を決定。郡長年額一〇二〇円が一五二〇円、警部三八〇円が五〇〇円に。
29(金) ●大阪の三越呉服店旧館が全焼、損害三〇万円。
30(土) ●長野市の善光寺仁王門が再建され、落慶式。
31(日) ●日本郵船、ポートサイド—マルセイユ間の地中海航路を開設。

▲**北海道帝国大学発足(4月1日)** これまでは東北帝国大学に所属していたが、札幌農学校を基礎とする農科大学に医科大学を新設、2分科大学として独立した。総長・佐藤昌介。

「写真通信」

▶**独軍の撃墜王・リヒトホーフェン戦死(4月21日)** フランス上空で空戦中に、地上からの対空砲火をあびた。前日、「80機撃墜」を達成したばかりだった。

Popperfoto／ユニフォト・プレス

◀**満鉄、鞍山製鉄所を設置(5月15日)** 「対華21ヵ条要求」で得た、満州(中国東北部)・鞍山の鉄鉱床採掘権に基づき銑鉄生産を企図。翌年火入れ式を行った。

「歴史写真」

▲**処女会中央部設立(4月13日)** 東京・上野精養軒で、山脇房子を理事長に発会。内務・文部両省が支援した。後、大日本連合女子青年団に。写真は幹部。

▶**久留米―福岡間リレーレース開催(4月28日)** 福岡日日新聞社主催。学生・青年団など114チームが64キロを走り、佐賀師範が優勝した。写真は第2中継点。九州初の駅伝だった。

「歴史写真」

▲**板垣退助の銅像完成(4月21日)** 明治15年に暴漢に刺され「板垣死すとも自由は死せず」の名言をはいた地、岐阜・金華山麓に建立。写真は、除幕式で謝辞を述べる板垣(81)。

『写真集　福岡100年』／西日本新聞社

大正7年4月

1(月)●東京帝大工科大学に航空研究所を設置。
2(火)●貨物取扱量増加のため客車増発できず、鉄道院は観光旅行を控えるよう要請、と新聞に。
3(水)●英軍、東部からヨルダン国境を越え、パレスチナに侵入。
4(木)●ウラジオストクでロシア兵が日本人三人殺傷。
5(金)●日英両国の陸戦隊、ウラジオストクに上陸。
6(土)●ソビエト政府、全シベリアの戦争状態を宣言。
7(日)●大杉栄・尾崎士郎ら、露国革命記念会を開催。
8(月)●ローマで、オーストリア被抑圧諸民族会議開催。チェコ・ユーゴ・ポーランドが自治権主張。
9(火)●東京の篤志家の白米安売りを、米穀商が妨害している、と新聞に。
10(水)●陸上競技・野球などで実業団チームの結成がさかん、企業は社員の健康に着目、と新聞に。
11(木)●英で、肉・バターが配給制となる。
12(金)●東京高等師範学校に、修身教育部を設置。
13(土)●文部・内務両省、処女会中央部を設立。女子青年団の国家統制をはかる。
14(日)●東京「郊外」の地価、山手線の駅周辺で坪三〇円、六〇〇メートル離れると一〇～一五円。
15(月)●大阪市、谷町など四ヵ所に初の公設市場設置。
16(火)●農商務相、四～五月分の米穀先物取引を禁止。
17(水)●軍需工業動員法公布。軍需工業に対する政府の保護・監督を認める。
18(木)●美濃電気軌道、日本初の女性車掌採用。
19(金)●二〇日にかけ、東北・佐渡で大火相次ぐ。
20(土)●英で、兵役年限を五五歳に引き上げる法律案が議会を通過。
21(日)●デンマークで、完全な普通選挙法が成立。
22(月)●第一次日米船鉄交換契約、調印。船舶不足の米国と鉄不足の日本が、船と鉄を交換。
23(火)●米国、ピットマン法を制定。政府紙幣を回収し、連邦準備銀行券を発行。
24(水)●書画流行で表装用金襴布地が品薄、と新聞に。
25(木)●住友倉庫、神戸に鉄筋コンクリート造り三階建て倉庫を完成。
26(金)●独ソが外交関係を確立。
27(土)●建築家・佐野利器ら、建築学会大会で、都市計画や中間層用公共住宅の必要性を主張。
28(日)●「東京朝日新聞」、「成金」の生態をルポ。
29(月)●リッケンバッカー大尉、米軍人として初めて独軍機を撃墜。
30(火)●私立専門学校・東京女子大学、開校。

証言・あの日この日
和辻哲郎(29)

5月17日(金) 〈久しぶりに帰省して親兄弟の中で一夜を過ごしたが、今朝別れて汽車の中にいるとなんとなく哀愁に胸を閉ざされ、窓外のしめやかな五月雨がしみじみと心にしみ込んで来た。大慈大悲という言葉の妙味が思わず胸に浮かんでくる。昨夜父は言った。お前の今やっていることは道のためにどれだけ役にたつのか、頽廃した世道人心を救うのにどれだけ貢献することができるのか。この問いには返事ができなかった〉(和辻哲郎『古寺巡礼』)

この頃、和辻哲郎は二、三の友人たちとともに集中的に京都、奈良近辺の古寺や古美術を見物してまわり、その印象を1冊の本にまとめた。それが『古寺巡礼』であるが、ちょうどこの日がそのスタートの日だった。和辻は実家に1泊した後、故郷の親兄弟と別れ、京都・南禅寺へと向かった。この日、京都は雨だった。(山崎行太郎)

「写真通信」

▲**宝塚、東京初公演(5月26日)** 帝国劇場で、浄瑠璃の「釣り狐」を翻案した狂言調歌劇「三人猟師」などを演じた。写真は22日、東京駅に到着した少女歌劇団一行。

毎日新聞社

▶**陸軍が軍用車製造に補助金(5月1日)** 大戦で重要性を認識、検査に合格した自動車に支給した。第1号は東京瓦斯電気工業会社製「TGE号」。写真は、満州で活躍する軍用車。

「歴史写真」

◀**九条武子(31)が法話(5月)** 仏教婦人会総裁として、東京の築地本願寺などで行った。かたわら武子は、格調高い短歌を発表、人間解放をうたいあげた。

「歴史写真」

◀**15年ぶり一高優勝(5月18日)** 東京・三田運動場で学生野球の決勝戦が行われ、内村の好投で慶応に4対零と圧勝、久々の覇権を獲得した。写真は26日、目黒の恵比寿ビール庭園で行われた祝賀会。

「写真タイムス」

▶**多摩川水源地で水神鎮座祭(5月21日)** 東京市民の水道水の源となる、山梨県荻原山山頂の湧水近くに神社を造営した。写真は、玉串をささげる田尻市長。

大正7年5月

1(水)●米国で、GMが、シボレーを買収。大型高級車から小型車まで、フルライン体制を確立。
2(木)●芥川龍之介、「地獄変」を新聞連載開始。
3(金)●農商務省が羊の飼育を積極推進、と新聞に。
4(土)●京都市長、市長選の買収・公金不正支出で収監。
5(日)●第一回全国青年団連合大会開催。
6(月)●在日中国人学生、日華共同防敵軍事協定に反対し、集会開催。二五人拘引。
7(火)●農商務省、外米の売買管理を開始。
8(水)●警視庁医務課で、初の女性嘱託医が勤務開始。
9(木)●大相撲、花形力士多数が風邪で休場届を出す。
10(金)●物価は前月比四・八パーセント上昇、と新聞に。
11(土)●外米放出を控え米相場急落、と新聞に。
12(日)●東京の丸善書店に独の原書二万冊が四年ぶり入荷、数日でほぼ完売、と新聞に。
13(月)●米国で、初めて航空郵便切手を発行(15日、航空郵便事業開始)。
14(火)●連合国艦隊の一隻としてインド洋で行動していた軍艦「須磨」が、二年ぶりで母港に帰投。
15(水)●魯迅が『狂人日記』を発表。
16(木)●日華陸軍共同防敵軍事協定調印。シベリアを視野に、日本軍派遣と中国の協力義務を規定。
17(金)●大阪野村銀行(現・大和銀行)設立。
18(土)●学生野球、一高が慶応破り一五年ぶりの覇権。
19(日)●人気沸騰の大阪高商主催ボートレース、企業の応援艇が芸者衆を乗せて酒盛り、顰蹙買う。
20(月)●蔵相、合同奨励など、銀行強化方針を訓示。
21(火)●北京で学生二〇〇〇人が、日華共同防敵軍事協定反対、段祺瑞打倒のデモ。
22(水)●独占事業の弊でガス会社が近頃横暴と新聞に。
23(木)●日本の農家は三割が養蚕を手がけ、世界の五割を供給、さらに伸ばしたい、と農商務省。
24(金)●福岡県中鶴炭坑、賃上げの約束不履行でスト。
25(土)●東京音楽学校で、ベートーヴェンの「交響曲第五番」を日本初演。
26(日)●宝塚少女歌劇、帝劇で東京初公演。
27(月)●西部戦線のソワッソン―ランス間で、独軍が総攻撃を開始。米軍が独軍と初の本格的戦闘。
28(火)●米政府、四鉄道を合併し戦時物資運搬円滑化。
29(水)●新聞夕刊が一銭から一銭五厘に値上げで釣り銭不足が問題化、と新聞に。
30(木)●横須賀市で三浦按針夫妻の記念碑除幕式。
31(金)●東京市中の野犬は約一万頭、狂犬病予防のために予防注射を、と新聞に。

▲鳥島で日食観測(6月9日) 東京天文台職員らが、伊豆諸島最南端の島に遠征。23年ぶりの皆既食だったが、あいにく雲が出て十分な観測はできなかった。「写真通信」

▼明治神宮外苑地鎮祭(6月1日) 内相・宮内相らが臨席して、明治天皇・昭憲皇太后の事績を顕彰する絵画館や大運動場などの、大正15年完成を期した。

▲大阪に簡易食堂開く(6月6日) 府と救済事業家らの努力で、日本橋に完成。前日、林知事らが1人前10銭の「簡易食」で祝宴を催した。食堂は25坪。定員は百余人。「写真通信」

▼英国王、大正天皇に元帥杖贈呈(6月19日) 故・ビクトリア女王の3男・コンノート殿下が、特使として来日。この頃日英関係は順調で、国民の大歓迎を受けた。「歴史写真」

▲独艦に撃沈された「常陸丸」の生存者が証言(6月12日) 前年、仮装巡洋艦の砲弾を受け死傷・捕獲された様子を、釈放された元女性給仕(右)が遺族らになまなましく語った。「歴史写真」

「歴史写真」

▶内村鑑三、「再臨運動」にかける(6月) キリスト教徒同士の戦争に失望した内村(前列中央)は、キリストの再臨による世界の完成を主張、伝道に熱を加えた。岩手県水沢で。

大正7年6月

1(土) ●大阪府、救済課(後、社会課)を新設。

2(日) ●東京の市電は運転系統が複雑でわかりにくく、乗客と車掌のいざこざが絶えない、と新聞に。

3(月) ●樺太(サハリン)に農事試験所など設置。

4(火) ●仏米連合軍、仏北部のエンで独軍の進撃撃退。

5(水) ●二三年ぶりの皆既日食(9日)観測のため、観測隊が、鳥島へ向け横浜を出航。

6(木) ●春先からスペインで風邪が大流行、国王や首相も感染、と新聞に(スペイン風邪)。

7(金) ●連合国、日本にシベリアへの出兵を求める。

8(土) ●「朝日新聞」に、「やたらに忠君愛国を持ち出す論者」と、「付和雷同する国民」を嘆く投書。

9(日) ●西部戦線のモンディディエ―ノワイヨン間で、独軍が総攻撃。

10(月) ●電気試験所設置。電気製品の公的試験を実施。

11(火) ●ブラジル移民が好調で、毎月一隻の割合で移民船が出航している、と新聞に。

12(水) ●帝室技芸員・小川一真が国産写真乾板を完成、外国品暴騰の折、写真界の快挙、と新聞に。

13(木) ●逓信省、農具など、米国宛小包禁止品を公示。

14(金) ●猫の愛玩が世界で流行、一番は英国と新聞に。

15(土) ●南部戦線でオーストリア軍が攻勢に出るが、伊軍は英仏の支援を受け、これを撃退。

16(日) ●警視庁は巡査三〇〇〇人増員、九〇〇〇人体制にする、と新聞に。

17(月) ●鈴木商店、帝国人造絹糸を設立、レーヨンの大規模生産に乗り出す。

18(火) ●大正天皇に元帥杖を贈るため、英国王の特使・コンノート殿下が来日。

19(水) ●帝国飛行協会設立。

20(木) ●将棋の高段者団体、「東京将棋倶楽部」結成(将棋組織統合の試みのひとつ)。

21(金) ●東京の各電話局、電話に関する不満増加のため、加入者を招き「親善握手会」など開催。

22(土) ●米・テネシー州で列車が正面衝突、九九人死亡。

23(日) ●北海道・夕張炭坑でガス爆発、一二人死亡。

24(月) ●京都帝大理科大学に、地球物理学・宇宙物理学の講座を設置。

25(火) ●救済事業調査会設置。貧困対策を研究。

26(水) ●独軍が、再び長距離砲でパリを砲撃。

27(木) ●東京の赤帽七〇人、ピンハネ嫌い組合結成。

28(金) ●米陸軍、化学戦部隊を創設。

29(土) ●ウラジオストクのチェコ軍、臨時政府を樹立。

30(日) ●京都市、京都電気鉄道を買収、市電一本化。

「現場」を歩く 堂島浜

“わが国初”の伝統が生きる「福島公設市場」のサービス精神

山本徹美

▲日本で最も古く「公設市場」となった「福島公設市場」は、「Pico福島」となり、スタイルも一新して、今も繁昌している。 但馬一憲

大正七年四月一五日、大阪市・堂島浜通三丁目(現・堂島浜)にある府立大阪医科大学敷地内に「北区日用品供給場」が開設された。わが国初の試み、「公設市場」の登場である。

後に「福島公設市場」と呼ばれるこの供給場の規模は、木造バラック建てで、売り場面積四七坪(約一五五平方メートル)。三〇区画に分割された売り場では、味噌、漬物、昆布、鶏卵など生鮮食品を、市価の二～三割引きで陳列した。

この年、米をはじめとして食料品の価格が暴騰。その一因に流通機関の不整備があると判断した大阪市議会では、同年二月、公設市場設置に関する建議が上程され、同三月、可決。実験的に半年間だけ市内四区(当時)に一ヵ所ずつ公設市場を開設することにしたのである。

市の管理は、商人の選定から品物の価格・品質検査にまでおよんだ。

「昔は恐かった。ちょっと油断をすると退場を勧告される。朝九時に店が出そろわなかったり、出勤簿に捺印を怠っても始末書」(「公設市場」昭和二八年一八号)

行政の市場介入には物価高騰を牽制する意図も含まれていた。一升五〇銭以上していた白米が、公設市場では三五銭で購入できた。

実験期間終了後、大阪市では公設市場の存続を決定するとともに、大正八年一二月、「公設市場使用条例」を制定した。

公設から民営化への転換

福島公設市場を訪ねてみた。入り口に「Pico福島」と看板がかかっている。店内にはレジが設置してあり、スーパーやコンビニと変わらない雰囲気だ。同市場の木野豪商人会会長(六〇)が提言、平成元年からこの方式にしたという。

「時代の流れには逆らえません。売り上げ不振と後継者不足を補うためです。これまで個人経営者が軒を並べていた市場を一元化、会社組織に転換をはかりました」

同市場には二四店舗あったが、全店の同意は得られず、品目別に売り上げを配分することで合意、運営されている。

最盛期には全国で五五ヵ所を数えた公設市場も、平成一〇年現在では二六に減った。大阪市では、平成一四年をめどに「公設市場使用条例」を廃止する意向で、その時点で公設市場は大阪市から消える。

「現在、市では公設市場支援策を実施しています。一市場に対し、ハード面で一億八〇〇〇万円、ソフト面で三〇〇万円を限度に民営化転換を支援しています」(大阪市経済局小売市場課・松村登課長)

市内最古の福島公設市場が「Pico福島」に変貌したのは、象徴的である。

「去る四月一三日には福島公設市場誕生八〇周年記念セールを開催しました。市民のための市場なんやから、いつもきちっとせなあかん、いう意識は私どもの底流にある。その伝統をサービスの原点にし活用したいですね」(前出・木野会長)

大阪市民に信頼された「公設」精神は、民営に変わっても受け継がれる。

▲大正7年4月15日、大阪で谷町、境川、天王寺、福島(写真)の「公設市場」が開設。写真は戦後のもの。

ベストセラー

“安楽死”の問題に挑んだ森鷗外の『高瀬舟』刊行！

この年二月、永井荷風の“花柳小説”『腕くらべ』が刊行された。前年までに雑誌「文明」に連載されたものをもとに、その年末に私家版としてわずか五〇部を発行し、さらに新橋堂から上梓したもの。荷風ならではの江戸美学を前面に押し出した小説で、芸者・駒代をヒロインとして、その周辺に、江戸の粋を体現したような人物や、肉体の力や金の力で世を渡る人物などを配し、花柳界の色事を通して、江戸から離れてゆく時代の雰囲気を浮き彫りにしてみせた。

前書きには「大磯の濡れ事ばかりは免れず今も昔も男と女客と妓女とのいきさつ此のみ寔に千古不易の人情とや申すべき」と記されているが、濡れ場の濃厚な描写も話題を呼んだ。「女はもう蔽ふものなき身の恥しさを気にするよりも今は却ていよ〳〵迫るわが息づかひの切なさ……」など、官能的で挑発的だった。

ほぼ同じ頃、時代を代表する人気作家・森鷗外の短編集『高瀬舟』が刊行された。

▶『腕くらべ』（新橋堂、価格不明）

「山椒大夫」「寒山拾得」なども収録されていたが、表題作は安楽死をテーマにしており、大きな問題を投げかけた。巻末の「高瀬舟縁起」に、この問題に対する鷗外の関心の強さが示されている。そこには安楽死に対して「従来の道徳は苦ませて置けと命じてゐる。しかし医学社会には、これを非とする論がある。……ユウタナジイといふ。楽に死なせると云ふ意味である。高瀬舟の罪人は、丁度それと同じ場所にゐたやうに思はれる。私にはそれがひどく面白い」と。

詩歌の方では室生犀星の『抒情小曲集』が九月に刊行され人気を呼んだ。北原白秋や萩原朔太郎はその跋文で「私の待ちに待つたもの」（白秋）などと絶賛し、推奨した。この詩集にはよく知られる次の一節も含まれている。「ふるさとは遠きにありて思ふもの／そして悲しくうたふもの／よしや／うらぶれて異土の乞食となるとても／帰るところにあるまじや」（「小景異情」）。

▼『抒情小曲集』（感情詩社、1円20銭）

◀『高瀬舟』（春陽堂、1円20銭）

日本近代文学館提供（3点とも）

スターと名場面

後の映画監督、衣笠貞之助「金色夜叉」で女形人気定着

この年、イタリアの人気女優、フランチェスカ・ベルティーニの主演映画がたてつづけに公開され、話題を呼んだ。六月に公開された「アッスンタ・スピーナ」（グスタヴォ・セレーナ監督）はその代表的な作品で、ベルティーニが演じたのは、自分に刃物を向け獄舎につながれた嫉妬深い恋人と、その裁判の折に彼女を卑劣な罠にはめた裁判所官吏との間で揺れる悲劇のヒロイン（その名前がタイトルになっている）だった。この映画では、彼女の感情の揺れ動きが、リアルなシーンの積み重ねで実にたくみに表現されており、後に、戦後イタリア映画における“ネオ・リアリズム”の原点と評されるようにさえなった。

アメリカからは、これも当時の人気女優の一人、クララ・キンボール・ヤング主演の「モデルの生涯」（モーリス・トゥールヌール監督）が上陸し公開された。不気味な男に催眠術をかけられ有名歌手になるが、やがて……という話で、オカルト映画の趣があった。

邦画では、後に映画監督で活躍する衣笠貞之助が、新進の女形としてデビュー、芝居で人気の「金色夜叉」（小口忠監督）などに出演し注目を集めた。なお、人気芝居の映画化では、この年「生ける屍」（田中栄三監督）も話題を呼んだ。

▲「アッスンタ・スピーナ」でヒロインを演じたベルティーニ（左）と、恋人役を演じた、この映画の監督でもあるセレーナ（右）。

▲「モデルの生涯」で人気を博したクララ・キンボール・ヤング。

▶「金色夜叉」で、女形としての人気を定着させた衣笠貞之助（右）。

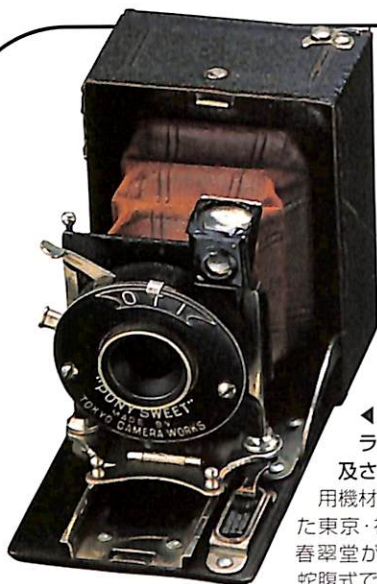
マツダ映画社提供（3点とも）

モノ語り'18

「キューピー人形」「森永ミルクチョコレート」「ゴム絆創膏」“品質と価格”の課題を克服して大好評！

▲国産万年筆の時代が始まった この年、現在のパイロットが、国産万年筆の生産会社として並木製作所を設立し、万年筆の生産・販売を始めた。すでに明治時代には欧米から輸入されており需要は見こまれていたが、品質と価格が課題だった。その課題を克服して売り出されたのが「パイロット万年筆」で、その金ペンの品質は高く評価された。写真は、インキのボタ落ちなどを防ぐ仕組みがほどこされたもので、価格は6円40銭ぐらいだった。 パイロット筆記具資料館蔵

◀入門用カメラが写真を普及させた 写真用機材を扱っていた東京・神田の曽根春翠堂が、この年、蛇腹式で、しかも折り畳める入門用小型カメラ「スイートカメラ」を製造・販売した。約4×5センチの〝スイート判〟と呼ばれるガラス乾板を使用した。レンズは単玉。鏡を使用して上からのぞく反射式ファインダーつき。価格は6円30銭で、カメラや写真の普及に貢献した。
日本カメラ博物館蔵／大畑俊男

◀輸入品から日本独自のスタイルを作る 大正初めにはアメリカで誕生していたキューピー人形が、日本に輸入され、日本独自のデザインを加えて、この頃「キューピー人形」として売り出されるようになった。セルロイド製で成形しやすく、大量に生産されて子どもたちの間に広く普及した。写真は大正7年に関口セルロイド加工所（現・セキグチ）で製作・販売されたもの。
セキグチ・ドールハウス蔵／平山亮

▶〝電気の時代〟にふさわしい製品 この年創立された松下電気器具製作所（現・松下電器産業）が、その第1号製品として製造・販売したのが、この「改良アタッチメントプラグ」だった。精度の高いものをできるだけ簡単に生産するために、ネジこみの部分に古い電球の口金を再生して利用するなどの工夫がなされていた。品質がよく、価格も他社製品と比べて3割近く安かったため、発売当初からよく売れた。
松下電器歴史館蔵

▼絆創膏がグンと使いやすくなった 日本でゴム絆創膏（ばんそうこう）が初めて作られたのは明治44年だが、その品質に大きな変革をもたらしたのが、この年発売された歌橋製薬所（現・ニチバン）の「ゴム絆創膏」だった。時間とともに変質してしまう従来の欠陥を克服する製法を開発し、日本の絆創膏は飛躍的に進歩した。

▶日本人向きのチョコレートが市場に登場 チョコレートは明治時代から販売されていたものの、アンパンの数倍もする高価なものだった。この年、森永製菓が東京・港区の田町工場に日本初の近代チョコレート生産設備を設置し、カカオ豆からの一貫製造を開始、「森永ミルクチョコレート」の発売にこぎつけた。1枚15銭で、これ以降、チョコレートが一般大衆の嗜好品として親しまれるようになった。

チョコレート普及に苦心した時代

日本に初めてチョコレートが登場した明治10年代以降、多くの日本人にとって、チョコレートは〝苦い味〟のするなじみにくいお菓子だった。だから森永製菓が自社で大量生産し、低価格を実現しても、一般に普及させるのは容易なことではなかった。発売当時の電車の壁面広告も、「最近、日本の嗜好を代表して」というコピーとともに、新しい時代の味であることを印象づけようとした。その後も、人気俳優を登場させるなど、チョコレート普及には相当の努力がついやされた。

人物クローズアップ

豊田佐吉（五〇）

発明王がファミリー経営に！「豊田紡織」から世界をねらう

大正七年一月、自動織機の発明家として知られる豊田佐吉（五〇）が、名古屋市に豊田紡織株式会社を設立した。それまで佐吉の個人経営だった工場を法人化し、佐吉を中心に、弟の平吉（四〇）、佐助（三五）、それに娘婿の利三郎（三三）ら、同族をおもな株主にして設立したものだった。二年後には長男の喜一郎（当時・二五歳）も加わり、豊田ファミリーによる本格的な会社がスタートを切るのである。

一部の親しい人をのぞき、佐吉が株主を身内で固めたのには理由があった。資金的な背景を持たない佐吉は、過去に商社などと合弁で会社の運営にあたったが、あくまで発明と製品開発を優先する佐吉と会社の方針が対立することもしばしばで、佐吉は苦い思いを繰り返していたのである。

▲豊田佐吉の研究室。ここで、杼換式自動織機の発明が生まれた。

設立から八年後の大正一五年、豊田紡織は豊田自動織機製作所に発展、世界の紡績機械をリードする企業となる。同族を柱に、社員も家族の一員にひとしく考える方針は日本的経営の典型とされ、また、同社を母体にスタートを切ったトヨタ自動車は、将来の日本経済を支える日本最大の企業に発展していくのである。

豊田佐吉は、慶応三年（一八六七）二月一四日、遠江国敷知郡山口村（現・静岡県湖西市）生まれ。父の伊吉は農業をいとなむかたわら大工職人でもあり、名工だった。幕末から明治の初期にかけて、職人の子として育った佐吉は、当時の一般庶民と同様の教育を受けたにすぎない。

そんな少年時代をすごしながら、一二歳になった佐吉は、父のもとで大工の見習いになった。しかし、時代は不況の真っただ中、仕事とてひどい時には月に一〇日から半月ぐらいの割合でしかなく、母のえいも機織りで家計を支えなければならなかった。

佐吉は類を見ないほどの機械好きだった。その佐吉が、母の織機に興味を示さないはずがない。それは「バッタンはたご」と呼ばれる織機で、大変な重労働を要するものだった。これが佐吉を動力織機の発明へと駆りたてた。

最初に手がけたのが、母たちが使っている木製手織機の改良である。明治二三年、従来の「バッタンはたご」より能率が五割ほども高く、製品にムラのない木製人力織機を発明、翌年、初の特許を獲得した。それ以降、動力織機の研究は本格化し、明治三〇年、日本初の動力織機で、画期的な性能を持つ木製動力織機を発明、これが広く普及して、佐吉の名は知られるようになった。

▲大正5年に操業を開始した第2織布工場。織機はN型豊田式動力織機で、1人が5～6台を担当した。

産業技術記念館提供（三点とも）

明治三六年、佐吉は日本人初の自動織機に関する特許を取得。その後も各種の自動化装置の発明や改良を重ね、四二年にはほぼ理想に近い杼換式自動織機を完成する。その間、佐吉は小学校の教科書にも登場するようになった。

評論家の梶原一明氏は、近代産業の中の豊田佐吉をこう位置づける。

「当時は機械文明を推進するための挙国一致の時代で、佐吉はそうした時代の士気を高めるために、時の政府から野口英世などと同じように、国民的英雄に仕立てられた人でした。もちろん、彼の発明した自動織機が、世界最高のものであることはたしかで、昭和四年には当時の世界のトップメーカーだったイギリスのプラット社に、技術供与をするほどになっています」

昭和五年一〇月三〇日、佐吉は六三歳で死去したが、長男の喜一郎は父の勧めで自動車の研究に専心。昭和八年、豊田自動織機製作所内に自動車部を設立し、これがトヨタ自動車へと発展していくのである。

▲大正7年、豊田紡織を設立した頃。この頃までに、第1紡績工場（大正3年）、第2織布工場（大正5年）が完成し、事業が順調に発展していた。

決定的瞬間

「ツァーリを殺せ！」の声の中 最後の皇帝・ニコライ二世が 一家とすごした〝幽閉の日々〟

CORBIS-BETTMANN PPS

▲1918年7月17日、ニコライ2世一家の処刑を、ソビエト中央委員会に伝えた暗号電報。

帝政ロシア最後の皇帝だったニコライ二世（五〇）とその子どもたちが、屋根の上で日光浴をしている。家族は屋根の上のことを「温室」と言って、ここでの日光浴を楽しんでいた。シベリアのトボリスク（人口二万人）という小さな町の知事公舎に幽閉されている一家の、くつろぎのひとときである。

ニコライ二世は、退位してから処刑されるまでの一年四ヵ月の間に、三度、生活の場所を変わっている。①ペトログラード郊外のツァールスコエ・セロ離宮（一九一七年三月二二日～八月一二日）、②シベリアのトボリスク（一九一七年八月二六日～一八年四月二五日）、③ウラルのエカチェリンブルグ（モスクワから東へ一四五〇キロ離れた鉱山町で、一万人の赤軍が駐屯していた。一九一八年四月三〇日～七月一七日、処刑の日まで）。

この転居の道筋をたどってみると、元皇帝一家の凋落（ちょうらく）の経過がよく見える。

離宮に幽閉された頃から、家族の友人たちは逮捕され始め、ニコライ二世は警備の兵士から「閣下」ではなく「大佐」と呼ばれるようになる。家族がトボリスクへ移されたのは、首都の労働者に「ツァーリを殺せ！」という声が少なくなく、むしろシベリアの田舎町の方が安全であると考えられたからだ。こうして一家は、随行者、医師、召使など三〇人とともに、逃走資金として大量の宝石類を隠し持ち、トボリスクへと旅立った。

このトボリスクに幽閉されている間に「一〇月革命」が起き、ロマノフ家の運命は再び暗転する。臨時政府は、時期を見て一家をイギリスに亡命させようと計画していたが、新しく誕生したソビエト政権はニコライ二世を裁判にかけるべきだと考えていた。ところが、革命後の内戦が激しくなるにしたがい、彼の存在は反革命の「生ける旗印」となる危険性を持ち始める。〝状況によっては、逃亡を理由に殺害もやむをえない〟という暗黙の了解。一家をエカチェリンブルグに移す決定がなされたのには、こうした背景があった。

この町ではニコライの家族はきわめて非人間的に扱われた。一家の到着は「貨物」と称され、警護隊は「貨物」をイパーチェフという技師の、異常に高い木の柵で囲われた奇妙な家に閉じこめた。家族は四部屋をあてがわれたが、部屋の窓は白いペンキで塗りつぶされ、皇女四人は一部屋で寝起きしていた。彼女たちを悩ませたのは、部屋の鍵をかけることが許されず、兵士たちに四六時中監視され、時には卑猥（ひわい）な声をかけられることだった。

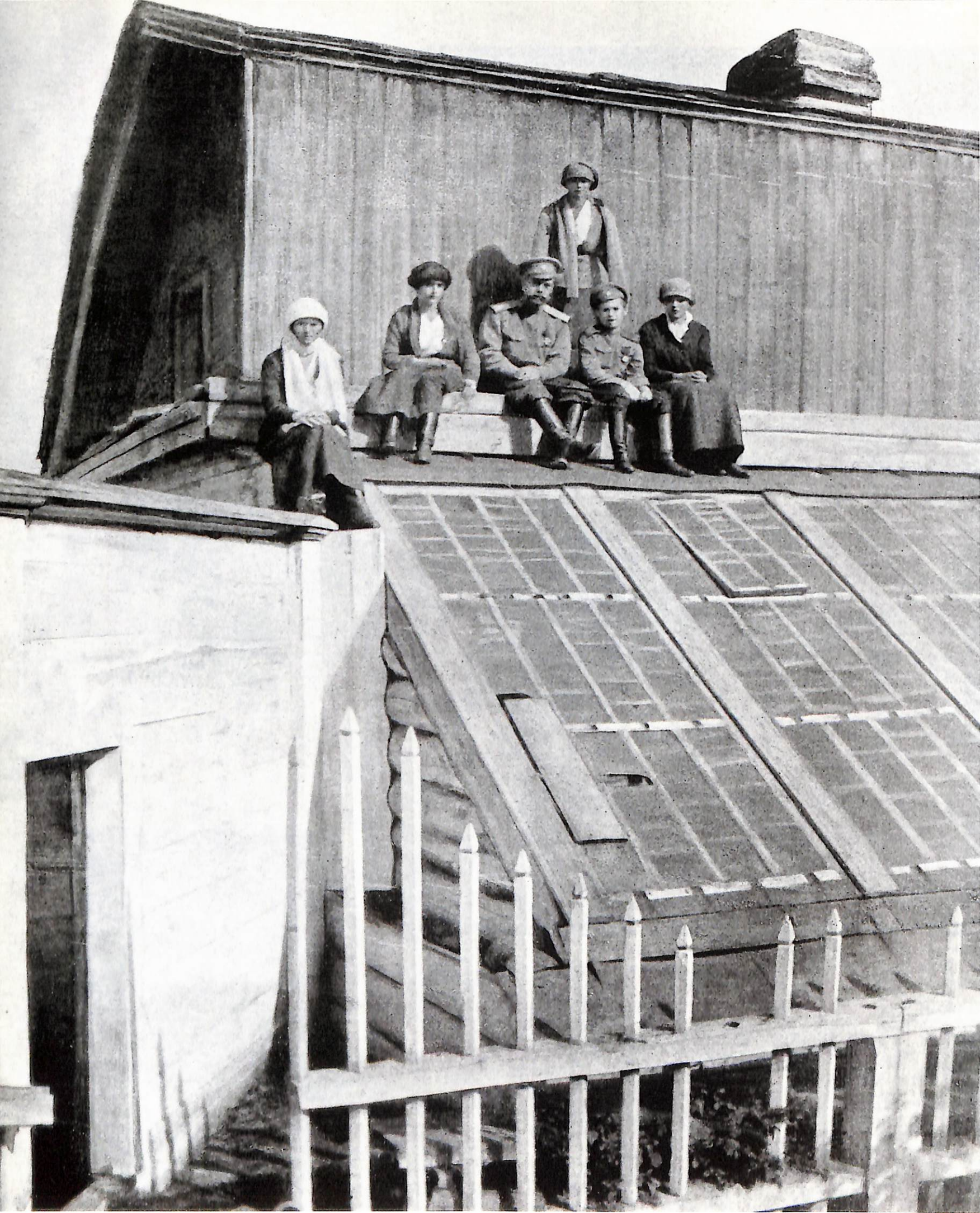
そして、一九一八年の七月一七日に悲劇が起きた。

午前二時頃、「通りで撃ち合いが始まり危険だから」と起こされ、家族と随員・従者合計一一人が地下室に追いやられた。そこに銃殺隊の責任者が現れ「あなたの親戚たちがソビエト・ロシアに攻撃を続行していることにかんがみ、ウラル執行委員会はあなた方の銃殺を決定した」と言った。

この時ニコライは驚愕（きょうがく）し、「何？ 何と言った？」と聞き返したそうだ（『皇帝ニコライ処刑』NHK出版）。部屋の外でトラックのエンジンがかけられ、発砲音がなるべく周辺に聞こえないようにして、一二人の銃殺隊が三列に並び、家族に向かって発砲。部屋の中には硝煙が立ちこめ、銃弾で死ななかった皇女の幾人かは銃剣で刺し殺された。

ニコライ二世とその家族の死は、ただちにモスクワのソビエト中央委員会に電報で報告されたが、レーニン（四八）はその電報を見ても黙っていたという。

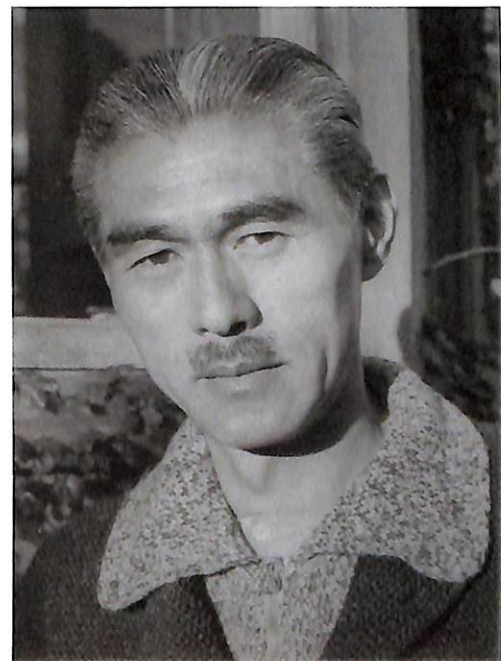
▼ニコライ2世一家の最後の住居となった、エカチェリンブルグのイパーチェフの家。この家で、一家の最後の悲劇が演じられた。

CORBIS-BETTMANN PPS

▲西シベリアのトボリスクの町で幽閉されていたニコライ2世とその家族が、屋上で日光浴をしている。1917年の「10月革命」の時、一家はここですごしていた。「イリュストラシオン」

美の出会い

“明るくハイカラで品がよい”児童雑誌「赤い鳥」を飾った画家・清水良雄の表紙と挿絵

◀「赤い鳥」創刊号表紙。大正七年七月一日発行。菊判（A5）よりやや大きい。定価は一八銭。装画は清水良雄。たしかなデッサン力による透明感あふれる清々しい絵が評判となる。

清水良雄画／甲斐信枝／日本近代文学館提供

▲「赤い鳥」の表紙・挿絵を手がけた清水良雄。

大正期と言えば、児童文学が空前の開花期を迎えた時代としても知られている。その先駆となり、決定的な指針を示したのが、大正七年七月に創刊された児童向け雑誌「赤い鳥」だった。主宰は、夏目漱石門下の有望な小説家として地歩を固めていた鈴木三重吉（三五）。

創刊に際して配布された標榜語に、三重吉は次のような決意を表明している。

「『赤い鳥』は世俗的な下卑た子供の読みものを排除して、子供の純性を保全開発するために、現代第一流の芸術家の真摯なる努力を集め、兼て、若き子供のための創作家の出現を迎ふる」

この三重吉の呼びかけにこたえて参加した作家たちには芥川龍之介（二六）、有島武郎（四〇）、北原白秋（三三）、島崎藤村（四六）、小川未明（三六）、西條八十（二六）ら、当代の文壇を代表するそうそうたる顔ぶれが並んだ。彼らの協力により、今なお読み継がれている作品や童謡の数々が生み出された。しかし、それとともに、創刊号から昭和一一年に終刊となるまで、多くの挿絵や表紙を手がけてきた洋画家・清水良雄の存在を忘れることはできない。

清水良雄が初めて三重吉に会ったのは、前年の大正六年のこと。京華中学校の同級生で、後に日本美術研究家となる丸尾彰三郎の紹介によるものだった。清水良雄二六歳の時である。三重吉は初対面から清水の絵と、その人柄を気に入り、さっそく、みずからの童話集『黄金鳥』の表紙に採用した。続く「赤い鳥」創刊号では、表紙・挿絵ともに全面的に清水にまかせたのである。

この頃の若い画家たちは西洋美術に強い関心を持つものが多く、輸入された書籍や画集を熱心に見ていた。清水も近代絵画から挿絵まで広く見ていたが、中でも英国の挿絵画家・ビアズリーに深い関心を持った。その影響からか、「赤い鳥」に掲載された清水の絵は、明るくハイカラで、品位があり、それまでの浮世絵系の画家が描く挿絵とは、まったくかけ離れたものだった。

創刊号ができあがった日、たまたま三重吉を訪ねた丸尾彰三郎は、三重吉が「赤い鳥」を手に取って表紙を眺めながら、広島弁で「ええのう、ええのう！」と連発する場面に遭遇している。

この成功に刺激され、児童向け雑誌が相次いで発刊される。その表紙や挿絵も「金の星」の岡本帰一、「童話」の川上四郎、「おとぎの世界」の初山滋ら、童画史を飾る画家たちが専属で描いた。この童話黄金期を象徴する画家が、清水良雄だったのだ。

明治二四年、東京・本郷に生まれた清水良雄は、大正五年に東京美術学校（現・東京芸術大学）西洋画科を卒業。在学中の大正二年、第七回文展に初入選し、以後、毎回入選を続け、師の黒田清輝、岡田三郎助、藤島武二らに愛され、将来を嘱望されていた。「赤い鳥」など童画の仕事に手を抜かず打ちこんだが、タブロー作家としても、大正一三年には帝展無鑑査となり、また、審査員もつとめている。戦時中、広島県芦品郡戸手村に疎開し、以後東京に戻ることなく、昭和二九年に没する。六二歳だった。

清水の晩年、唯一の弟子として、また娘のように愛された絵本作家・甲斐信枝さんは、清水について「もし、人を評するに“春風駘蕩”と“秋霜烈日”のどちらかで表すならば、先生は“秋霜烈日”の人ということになりましょうか」と、次のように語ってくれた。

「先生は日常生活の中でも、どんな些細なことに対処なさる時も慎重で、心のゆき届く方でした。また、『育てる』ということがお好きな方でした。動物を、植物を、人の心を育てるということ。『作品は人なり』ですが、そのお心が、子どものためのお仕事にも表れていると思います」

▲「赤い鳥」大正11年1月号表紙。　清水良雄画／甲斐信枝／日本近代文学館提供

▲「赤い鳥」大正10年12月号表紙。　清水良雄画／甲斐信枝／日本近代文学館提供

▲「赤い鳥」創刊号に掲載された、北原白秋の「りすりす小栗鼠」。細部の描写にごまかしがなく、それでいて童謡の旋律が流れているような構成となっている。

清水良雄画／甲斐信枝／日本近代文学館提供

20世紀博物館

那須オルゴール美術館

栃木・那須町

高原の大自然の中、組みこまれた仕掛けが奏でる“感動”との出会い

桑原茂夫

▲館内にずらり勢ぞろいした名品の数々。代表的ないくつかのオルゴールを、順々に聞かせてくれるようになっている。

オルゴールと言うと、「乙女の祈り」などポピュラーなクラシック・メロディーが流れ出す洒落た小箱か、小さな人形などがついた可愛らしい玩具といったイメージを抱くのが普通だろう。

しかし、このオルゴール美術館に入ってガイドに真っ先に「オーケストラボックス」を見せられると（オルゴール操作もしてくれる）、そんなイメージはあっさりかき消されてしまう。箱の長さ一メートル以上というスケールの大きさもさることながら、その演奏ぶりがオルゴール・イメージを超越しているのだ。

一八六〇年代にフランスの宝石会社が製作したシリンダー式のオルゴールなのだが、シリンダーに埋めこまれた爪が鍵を弾いて出すオルゴール・サウンドだけでなく、小さな太鼓をたたく音や、目に見えない吹奏楽器のサウンドが響いてくる。まさに小オーケストラの自動演奏機なのである。

このオーケストラボックスでど肝を抜いておいて、ガイドは次にディスク・タイプのオルゴールを見せてくれる。ディスクといっても直径四〇～五〇センチはあろうかという大きな円盤で、これに爪が配列してあり、回転とともに鍵を弾きメロディーを奏でる。ここでもそのスケールの大きさと、優美なメロディー、そしていろいろと工夫された仕掛けに驚かされることになる。

さらに、三枚のディスクが同時に回転してひとつの曲を奏でる、大変珍しい合奏式のオルゴールや、オートディスクチエンジャー、つまり何枚も組みこまれたディスクが自動的に入れ替わることで、次々に違うメロディーが流れる、ジュークボックス・タイプのオルゴールなども楽しませてくれる。

ところで、この素晴らしいコレクションが実は個人のものだというのだから、さらに驚かされた。館長である田中健さんのお父さんが幼少の頃、故郷・滋賀県彦根のアンティーク店でシリンダー式のオルゴールを見つけ、その音色に魅惑されたところから、このコレクションが始まったのだという。

もうひとつ特筆すべきことは、この美術館の場所である。那須高原の大自然に包まれてはいるものの、交通の便がよくないこの土地に建設したのは、精密機器としてのオルゴールの生産地であるスイスの気候風土に最もよく似た場所だったからというのだが、どうもそれだけではないような気がした。来館者を現代の都市生活から隔離し、少しでもその垢を落としたところで自然の感覚を蘇らせようとする意図が感じられるのである。そうしてこそ、素朴な装置が奏でるメロディーを素直に受けとめ、感動を深めることができるからだ。そこまで仕組まれたミュージアムなのだと思う。

▶最初に聞かせてくれる「オーケストラボックス」の本体。中央に太鼓を見ることができる。この下に、二五本のシリンダーが収納できるボックスがついて、展示されている。一八六〇年代の製作。

▲からくり仕掛けの人形の名品も展示されている。これは口笛のようなサウンドを響かせる「口笛人形」。1900年の製作である。

▲那須の豊かな自然の中で、宇宙空間に広がるイメージを追求したという館の外観。

●那須オルゴール美術館
栃木県那須郡那須町一ツ樅二一七〇
☎〇二八七－七八－二七三三
JR東北新幹線那須塩原駅、東北本線黒磯駅からバス広谷地下車、シャトルバス出迎えあり
開館時間＝九時～一八時（一〇月～三月は一七時まで） 年中無休
入館料＝一般一〇〇〇円

2.5ヘクタールの土地を1517円余で購入
“批判”の中で宮崎県の僻村に20人が移住
武者小路実篤、「新しき村」建設！

▲「新しき村」には生まれた場所、環境も違うさまざまな人が全国から集まった。写真は開拓当時のメンバー。後列左から6人目が実篤、その左隣が房子夫人。

大正七年、揺れ動く騒然とした時代の渦中で、白樺派の代表的作家である武者小路実篤は、それまで自分のあこがれていた理想社会「新しき村」を宮崎県に創設した。実篤は、みずからの文学活動を実践に移し、新しい形の生活の雛形を広く世間に示すことで、そうしたライフスタイルを普遍化しようとしたのだった。

有島武郎をはじめ各界に批判が続出

「新しき村」の場所が宮崎県児湯郡木城村字城（現・木城町石河内）に決定したのは、大正七年一一月一四日である。

同年九月一四日、武者小路実篤（三三）は東京・本郷追分の基督教青年会館で「新しき村」の最初の演説会を開き、「この仕事が失敗すれば自分の恥」とまで言い切って、「新しき村」創設への固い決意を表明した。翌日、彼の千葉県我孫子の家には志賀直哉（三五）ら雑誌「白樺」の同人、「新しき村」への共鳴者など数多くの人々が集まった。実篤が宮崎県日向に土地さがしに向かうので送別会が開かれたのである。

しかし「村」にふさわしい土地はなか

新しき村
第一年七月號

▶大正七年七月創刊の「新しき村」。実篤は同年八月、感想集『新しき村の生活』を刊行する。

なか見つからなかった。「城」の地は農地としてはけっして条件のいい土地ではなかったが、購入資金が潤沢ではない実篤にとっては価格が重要だった。やっとのことで私有地約二・五町（二万五〇〇〇平方メートル）を、価格一五一七円四四銭で購入したのである。資金としては、当時、外務省に勤務していた兄・公共（三六）からの二〇〇〇円の寄付金があった。

「彼にとっては文学をやらうと思つたのと、新しき世界を生み出したいと思つたのとは、殆ど同時である」と自伝的小説『或る男』の中に書いたように、実篤は二二歳の頃、すでにトルストイの影響を受けて「新しき村」を空想していた。彼にとって、文学と「新しき村」は密接不可分だったのだ。そこで、実篤らはどのような生活をしようとしたのだろうか。

「新しき社会をつくらうと云ふのである。其処では皆が働ける時一定の時間だけ働くかはりに、衣食住の心配からのがれ、天命を全うする為には金のいらない社会をつくらうと云ふのだ」（『土地』）

つまり、誰もが生活の心配なく、自分を生かしきれる社会を作ろう、というユートピア思想のもとに農業共同体を作ったのだ。三菱長崎造船所や大阪鉄工所因島工場などでストライキが起こり、山口県宇部村の炭鉱や三井三池炭鉱では暴動が発生し、米価の暴騰は、全国的規模の米騒動へと発展していった時代のことである。人々の関心は科学的社会主義に向きつつあった。このような時期に生まれた「新しき村」について、批判的見解が多かったことはいうまでもない。

社会主義者の山川均（三八）は、理論と方法を欠いた理想主義は夢想主義に終わると言い、河上肇（三九）は、意図はいいが経済的には資本主義の圧迫を受けて失敗するだろうと予言した。最も注目すべき批判者は、『白樺』の最年長者・有島武郎（四〇）であった。

「私はあなたの企てが如何に綿密に思慮され実行されても失敗に終はると思ふのです」（『中央公論』大正七年七月号「武者小路兄へ」）

有島の批判は、夢を実現するためには、趣意に徹底せよという好意的な悲観論であった。

◀宮崎県児湯郡木城村に開かれた「新しき村」。大正一一年頃の撮影。

▶刈り入れ風景。写真中央が実篤。入村者の中に、農家の出身者も少しはいたが、ほとんどが未経験者で、創設期の「新しき村」は、何年にもわたって苦難の連続だった。

実篤の"理想郷"は今も埼玉県毛呂山町に現存

実篤が同志一九人と「新しき村」を起こしてからの数年間は、苦難の連続だった。「城」は小丸川に包みこまれた孤立した土地で、石河内に行くには舟を利用しなければならなかった。雨の多いこの地方では、時々増水して舟が流された。舟がなければ、買い出しに出られず、たちまち「村」は飢餓状態にさらされる。そのうえ、畑作に適した土地はわずかだったし、公家華族（子爵）出身の実篤をはじめ、知識階層出身の多い「村民」は鍬の柄の取り替えもできない人々が多かった。

だから「村」が自立のできる日まで、年間約六〇〇〇円という「村」経営の基盤は、実篤の原稿料、実篤を支援する文壇・画壇の篤志家、および村外会員の援助にたよらざるをえなかった。そのためかどうか、「村」での実篤の文学活動は眼をみはらせるものがあった。

『原稿は断っているより、書いた方が早い』というのが彼の口癖だったのですが、大正八年から大正一二年までに出た単行本は三〇冊を超え、雑誌への寄稿数は一〇〇編に近かった。電気のない僻村で、夜はランプの下での執筆ということを考えるとこれは奇跡的と言っていい仕事量ですよ」（文芸評論家・山本容朗氏）

大正一五年一月、すでに二児の父親となっていた実篤は、子どもの教育と病身の母・秋子を案じて、奈良に移住し、村外会員となる。しかし、「村」への経済上の支援は、「村」が自立するまで、その後何十年も続けられた。

昭和一三年九月、宮崎県県営ダムの計画が発表され、「城」の最も肥沃な土地が水没することになり、「東の村」建設が計画された。埼玉県入間郡毛呂山町葛貫の雑木林一町歩が「東の村」となったのは昭和一四年九月である。一二人が住みつき、宮崎県日向に一家族が残った。日向では現在四人の会員が活動している。

平成一一年に、創設六〇周年を迎える「東の村」は、敷地一四町歩と規模も大きくなり、財団法人「新しき村」の運営のもとで、三〇人の会員が共同生活をいとなみ、七〇〇人ほどが村外会員として、村を外から支えている。

「悩みの種は、六〇人を超えたこともあった村民が半減し、労働力に余裕がなくなったことです。若い人が居つかない。金がなくて、膨大な時間のある生活に耐えられないのかも知れません。今の村民は何十年もいる人で、その後に入ってきた人は残っていません。村の財政は養鶏、稲作、椎茸、お茶、果樹などからの収入で、私が入村した三七年くらい前から自立できるようになりました」

と語るのは、財団法人「新しき村」会計の朝日靖夫氏（現・六四歳）である。

現在、村民の生活は、一日の労働時間六時間。衣食住、医療、教育費など個人負担はなく、年に五六万円の小遣いが平等に支給される。創設時期には幻想と言われた「新しき村」だが、八〇年を経た今も、営々とした努力が積み重ねられているのである。

▲村での食事風景。写真左端が実篤。左方に犬が見えるが、大正8年から山羊2頭、豚2頭、馬1頭も飼われた。

フォト＋日録で再現する365日

▲東京府参事会、小笠原視察（7月6日）現状をさぐるため、横浜から出港。八丈島にもまわった。写真は父島に着いた一行と出迎えの島民。小笠原諸島は明治8年日本に帰属、東京府が管轄していた。

「写真通信」

中村屋提供

◀ビハリ・ボース、相馬俊子と結婚（7月）インド独立の志士が、前々年までかくまわれていた東京・新宿中村屋の主人・相馬愛蔵の長女との愛を実らせた。

▼消防ポンプ車時代（7月）警視庁が急務の設備近代化を行い、米国からポンプ車と水管車各25台を購入し、各消防署に配車した。蒸気ポンプは全廃となった。

毎日新聞社

▲赤軍、徴兵（7月）最高軍事会議議長・トロツキーのもと強化に取り組み、4月に15万人だった人員が、9月に55万人、1920年の末には550万人に達した。

「写真通信」

▲下関駅構内で弾薬爆発（7月26日）照明弾などを、軍用貨車から船に積みこむ作業中に、落とした箱が爆発。京都行きの列車を巻きこんで、死者27人、負傷者約60人の惨事に。

石井行昌／京都府立総合資料館提供

▲“新生”京都市電、運転開始（7月）明治28年に開業した日本最初の路面電車・京都電気鉄道の「チンチン電車」（写真）を市が買収、市電と統合運営することになった。

「歴史写真」

大正7年7月

1（月）●英国で、石炭・ガス・電力が配給制となる。

2（火）●禁止の闘犬が東京市内で再流行、と新聞に。

3（水）●露の反革命派のホルバート、仮政府組織を宣言し、日本に援助を要請。

4（木）●ウィルソン米大統領、和平に関し四目標設定。

5（金）●広東改組軍政府成立宣言。南北軍閥の妥協が成立し、孫文の護法運動は失敗に終わる。

6（土）●革命を避けて渡米途上の露の作曲家・ピアニスト、プロコフィエフが、帝劇で演奏会。

7（日）●東京の電車事故は大半が乗員の過失と新聞に。

8（月）●米、チェコ軍救援のため、ウラジオストクへの日米共同出兵を提案（17日、日本は原則同意）。

9（火）●全国の郵便貯金総額は五億円、日本は世界第三位の貯金国、と新聞に。

10（水）●全露ソビエト大会、ソビエト憲法を採択。共産党によるプロレタリア独裁を明文化。

11（木）●西日本を大型台風が縦断、兵庫県で小学生一〇人溺死など各地で死者多数。

12（金）●徳山湾で、戦艦「河内」の火薬庫が爆発、沈没。乗員六四五人死傷。

13（土）●プラハで、チェコ国民会議創設。

14（日）●欧州戦場にある在カナダ日本人義勇兵は一八五人、すでに四七人が戦死、と新聞に。

15（月）●「シベリア出兵」に関し元老会議開催。山県有朋が一転、出兵を主張するが、結論出ず。

16（火）●農商務相、米の所有数量強制調査を指示。

17（水）●露皇帝・ニコライ二世一家が銃殺される。

18（木）●農商務省、米価暴騰のため大阪・堂島米穀取引所に期米取引（先物取引）無期限停止を命令。

19（金）●西部戦線の独軍、退却を開始。

20（土）●東京で、映画の自殺シーン撮影中に電車が急停止、出演女優らが警察の取り調べ受ける。

21（日）●戦時海上再保険法公布。

22（月）●東京市街自動車に乗合自動車事業を許可。

23（火）●富山県魚津町などで、米の県外積み出しを阻止しようとする住民の動きが激化。

24（水）●米国燃料庁、週四日は夜間の灯火を消す指令。

25（木）●川崎造船所の関連工場・川崎製鉄が操業開始。

26（金）●米国で砂糖が配給制。一人一ヵ月約九〇〇グラム。

27（土）●中国、米国向け一万トン級商船四隻建造初契約。

28（日）●中国の満州里に赤軍迫り、日本人引揚げ開始。

29（月）●米価、天井知らずの高騰、小売一円で二升四合。

30（火）●内務省、「シベリア出兵」関係記事を差し止め。

31（水）●米価暴騰、各地米穀取引所は全面立会停止。

証言・あの日この日
井植歳男（15）

3月某日　〈手ぜまになった鶴橋をひきはらい、私たちは大開町（福島区）へ移った。こんどは同じ借家でも、二階建てで広かった。研究中の新しい製品もでき、人も加わり、「松下電器製作所」が発足した。私も改めて正式に入社し、原料練りやポンス押しに昇格した。工場の前に、西野田工業専修学校があった。／勉強不足を痛感していた私は、これを見てはじめて、夜は学校へ行こうと考えた。義兄も賛成してくれた〉（井植歳男「私の履歴書」）

この年、戦後日本の高度経済成長の牽引車となり、経済大国日本のシンボルともなる「松下電器」が、町工場としてうぶ声をあげた。後に三洋電機を興す井植歳男少年は、その前年に、義兄・松下幸之助が大阪の電灯会社をやめて設立したソケット工場に参加したばかり。社員はわずか3人だった。しかし夢があった。（山崎行太郎）

「歴史写真」

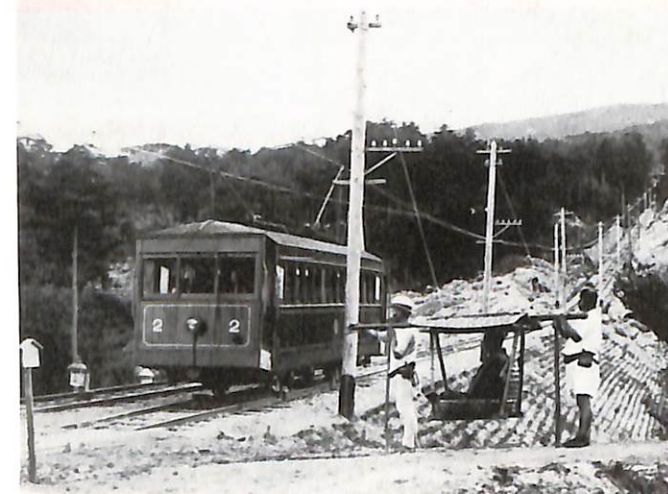
▲北海道・名寄の一族50人余、ブラジルへ（8月26日）第1次世界大戦で欧州からの移民が激減、ブラジルは日本からの移民に期待した。写真は途中の東京駅で。

「写真集　三重百年」

▲貧困対策に、町がうどん・そばの安売り（8月）好況とはいえ物価高と米不足で、貧困層の生活は困難をきわめた。三重県西町（現・津市）では、町営の店を作って生活を支援した。

「写真タイムス」

▲「娘強盗」に懲役5年（8月26日）東京・深川で斧を持って押し入り、居あわせた13歳の少女をおどして現金や金時計を奪った。犯人は17歳の少女だった。

▶女高生が臨海学校（7月12日）大阪府立清水谷高等女学校が1週間、堺市・諏訪の森海岸で実施。女性の水着姿が珍しい時代に、全校生が参加。

近畿日本鉄道提供

▲日本初のケーブルカー誕生（8月29日）大阪電気軌道・生駒駅近くの鳥居前から、「生駒の聖天さん」として大阪商人の信仰を集める生駒山東腹の宝山寺までを、12分ごとに運転した。定員56人。

大正7年8月

1（木）●鉄道院、運賃・料金を約二五％引き上げ。

2（金）●政府、「シベリア出兵」を宣言。

3（土）●英軍、ウラジオストクに上陸（16日、米軍も）。

4（日）●日米両国、シベリアでの共同行動を宣言。

5（月）●東京で、鉱山用火薬を積んだ荷車が電車と衝突して爆発、三六人死傷。

6（火）●神奈川県江ノ島の大桟橋が台風の激浪で崩壊。

7（水）●モスクワ駐在日本総領事館が引揚げ、日ソ関係断絶へ。

8（木）●鉄道院、米・木炭輸送に特別態勢、臨時列車など運転開始。

●西部戦線で、独軍の決定的敗北が始まる。

9（金）●米国政府、自動車メーカーに、完全な戦時生産態勢への移行を指示。

10（土）●米騒動、名古屋・京都に波及（以後全国に広がり、資産家などの襲撃、軍隊の出動相次ぐ）。

11（日）●日露実業（株）開業。露での産業開発に融資。

12（月）●日本の陸軍部隊がウラジオストクに上陸。

13（火）●閣議、一〇〇〇万円を限度に米の強制買い入れ資金の支出を決定。

14（水）●内務省、米騒動に関する報道を禁止（新聞各社は反発し空白の新聞を発行。17日一部解禁）。

15（木）●東京電気（現・東芝）、独立の研究所を設立（この頃から、企業の研究所設立がさかんになる）。

16（金）●米陸軍軍法会議、独スパイに死刑判決。

17（土）●憲政会、米騒動に関し、政府の処決を要求。

18（日）●横須賀の原造船所で五〇〇人が賃上げスト。

19（月）●閣議、元帥刀を制定。銀の鞘に金の菊花紋章。

20（火）●群馬県岩鼻の砲兵工廠で火薬爆発、二人負傷。

21（水）●通信手不足で電信は手紙より遅い、と新聞に。

22（木）●東京市の一戸当たり人数は三・八人で、六大都市中最低と東京市調査。

23（金）●東京府、「外米の炊き方」のチラシ二万枚配布。

24（土）●米価高騰の中、野菜類は総じて安いと新聞に。

25（日）●「大阪朝日新聞」、記事中に不穏な文言があるとして発売禁止に（「大阪朝日新聞筆禍事件」）。

26（月）●大蔵省、金銀および同製品の輸出を禁止。

27（火）●米国政府、石油不足のため、行楽に自動車などを使用しないよう国民に要望。

●米国でスペイン風邪猛威、死者五〇万人。

28（水）●東京府、指定業者を通じ米の廉売を開始。

29（木）●奈良県生駒山に日本初のケーブルカーが開通。

30（金）●露のエスエル派、レーニン暗殺はかる（未遂）。

31（土）●東京市、米の「恩賜廉売切符」二五万枚を配布。

日録 20世紀1918

9~10月

「写真通信」

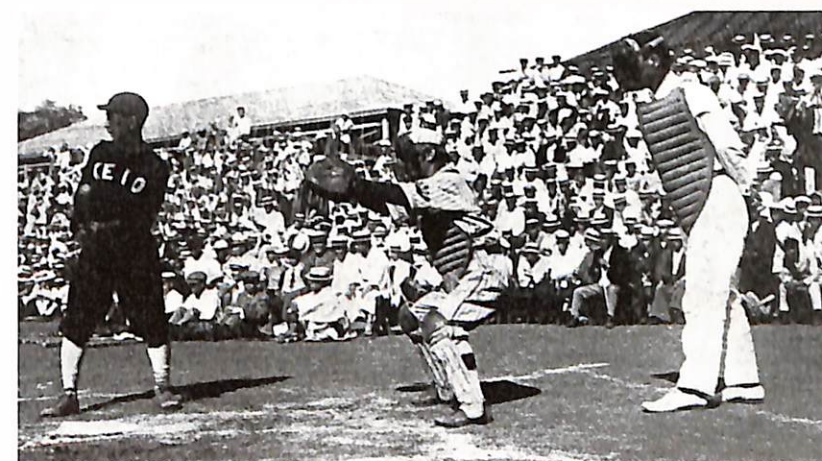
▲東京市電、連結車試走(9月) 流行歌に「東京名物満員電車」と歌われるように、運転に支障をきたすほど乗客が増加、対策が求められていた。写真は、2両の間に1両を連結する仕組み。

▲松竹と芸術座が提携第1回公演(9月5日)「芝居王国」を謳歌する松竹社長・大谷竹次郎が呼びかけて実現。ハウプトマン作、島村抱月翻案「沈鐘」を上演した。主演・松井須磨子(左)。

▲西部戦線で独軍総崩れ(9月12日) 仏・北東部、ムーズ河畔のサンミエール市での激戦に、パーシング将軍率いる米軍23個師団が参戦、連合軍を勝利に導いた。写真は同市に入る米軍。

▼「東京海上ビルヂング」竣工(9月20日) 東京駅前に、鉄骨鉄筋コンクリート造り7階建て、延べ床面積5185坪の、日本初の本格的オフィスビルが誕生。東京海上火災保険など57社が入居。

尾形光彦提供

「歴史写真」

▲シアトル邦人野球団「旭軍」来日(9月2日) 初の母国観光と、東京の4大学との対抗戦が目的だった。6日の初戦・慶大戦は3対5で敗れ、結局、1勝4敗の成績で帰国した。

▶安井曾太郎作の裸体画「少女」取りはずし(9月9日) 東京・上野で開催される第5回二科展を翌日に控え、警視庁が命令。特別室展示も禁じられた。写真は会場の模様。

大正7年9月

1(日)●米国政府、パンに小麦の代用品二〇%を混入するようパン製造業者に指示。
2(月)●東京で一日五銭の「安価栄養料理講習会」開催。
3(火)●男性用帽子は茶がすたり青鼠が流行と新聞に。
4(水)●三井三池万田坑で、検炭の不満から暴動、軍隊が出動し鎮圧。
5(木)●米陸軍長官のプロ野球日程短縮命令で、早くもこの日からワールドシリーズが始まる。
6(金)●名古屋で、行進中の軍馬が観衆の万歳に驚き暴走、電車に衝突して兵士など十数人負傷。
7(土)●加藤高明憲政会総裁、遊説で、「八八艦隊」計画のためには増税も辞さずと主張。
8(日)●東京の労働事情好転、職業紹介所・付属宿泊施設の客が減少傾向、と新聞に。
9(月)●二科会展覧会で、裸体画が取りはずされる。
10(火)●大阪府警本部、米騒動の扇動容疑者検挙開始。
11(水)●東京府、寄付金をもとに小石川・深川・浅草など五ヵ所に日用品廉売所「武蔵屋」を開業。
12(木)●東京で、寺内内閣弾劾全国記者大会開催。
13(金)●四月に設置された大阪の公設市場が成功、妨害していた小売店も値下げ、と新聞に。
14(土)●オーストリア、米大統領に講和会議開催提案(米国は拒否)。
15(日)●「東洋経済新報」、シベリア撤兵要求論文掲載。
16(月)●福岡県若松炭坑で浸水事故、二九人死亡。
17(火)●東京市、塵埃防止に散水自動車採用を決定。
18(水)●北海道帝大、女子の入学を許可。
19(木)●日本の経度基点を東京天文台に定める。
20(金)●東京海上ビル完成(初の「ビルヂング」の名称)。
21(土)●寺内正毅首相、辞表提出。西園寺公望に組閣命令(25日辞退)。
22(日)●日本軍、黒竜江鉄道の全線を占領・確保。
23(月)●東京で期米暴騰、一石三五円で取引停止に。
24(火)●東日本に大型台風、東京・深川では米穀倉庫の米一万俵に浸水被害。
25(水)●帝劇、警視庁の「時節柄」との指導で、一〇月公演予定の「大塩平八郎」の取りやめを決定。
26(木)●西部戦線で、連合軍が最後の総攻撃開始。
27(金)●政友会の原敬に組閣命令(29日、原内閣成立)。
28(土)●「大阪朝日新聞筆禍事件」に関連し、朝日新聞社長・村山龍平らが暴漢に襲われる。
29(日)●中央線沿線の運送業者、滞貨激しい貨物の荷さばきを徹夜で、との鉄道院の要請を拒否。
30(月)●ブルガリアと連合国、休戦協定に調印。

「写真通信」

▲脚光あびる和文タイプ(9月22日) 大正3年に杉本京太が発明、翌年に販売されて以来、急速に普及。タイピスト養成が急がれた。写真は大阪市商業会議所による、男女各15人の印書速度競技会。

▼チェコ兵、聖路加病院へ入院(9月17日) 露軍の武装解除命令を拒否し、シベリアで叛乱を起こした将兵で、8月に「シベリア出兵」した日本軍が救助。負傷・病気の20人を東京・築地へ送った。

▲歴戦の英国戦車、来日(10月24日) 横浜港で陸揚げ(写真)。陸軍の研究に資するため、東京砲兵工廠に搬送された。重量27トン、1分間に500発を発射できる機関銃8門を装備。

「写真通信」

▲「大阪朝日新聞筆禍事件」(10月14日) 君主への叛乱を意味する「白虹日を貫けり」との記事が問題化。社長・村山龍平が辞任、編集局長・鳥居素川(左)も15日退社した。

「写真通信」

▲東京で急設電話抽選会開く(10月30日) 7月に募集したところ数万人もの申込者が殺到、最新の抽選器を用いて籤引きを行い、3500人が開通を勝ち取った。

▼中華民国大総統に徐世昌(10月10日) 北京国会が9月に選出、広東軍政府の反対を排して就任した。写真前列左から4人目が徐。63歳。4年後、後ろ盾の段祺瑞の失脚で辞任した。

大正7年10月

1(火)●森永製菓、「ミルクチョコレート」を発売。
2(水)●軍需工業動員法を朝鮮・台湾などでも施行。
3(木)●日本は工業施設用耐火煉瓦が品薄、と新聞に。
4(金)●日本郵船の貨客船「平野丸」がアイルランド沖で独潜水艦の攻撃を受け沈没、二二〇人死亡。
5(土)●東京で、アジャンタ壁画の模写展開催。
6(日)●銅貨不足で商店が釣り銭集めに苦労、日銀当局は好景気で小銭軽視が原因かと首かしげる。
7(月)●独のスパルタクス団、政権奪取とプロレタリア独裁方針を決定。
8(火)●東洋酸素設立。酸素ガスの製造販売を開始。
9(水)●急進的国家主義団体「老壮会」結成される。
10(木)●「自由のため」に参戦した元良心的兵役拒否者ヨーク伍長が、独兵一三二人を捕虜にする。
11(金)●大学教授に魚釣りが流行、著作もと新聞に。
12(土)●平山清次、小惑星の「族」を発見。
13(日)●インド方面で商船の保護にあたっていた軍艦「八雲」が、任務終え一年ぶりに横浜に帰港。
14(月)●チェコ国民評議会、パリで臨時政府を樹立(21日、プラハでチェコ共和国宣言)。
15(火)●閣議、シベリア派遣軍をバイカル湖以西に進出させない方針を決定。
16(水)●大蔵省印刷局が、官報に全国の院線時刻表を掲載、目的は官報の売り上げ増か、と新聞に。
17(木)●ハンガリー、オーストリアからの独立を宣言。
18(金)●米国旅行中の実業家・久原房之助が特別列車に八四五〇円の散財、米人を驚かす、と新聞に。
19(土)●米陸軍第八一師団が、山猫のデザインの袖章を採用、「山猫師団」として有名に。
20(日)●朝鮮米払底、次は台湾米売り出し、と新聞に。
21(月)●大正海上火災保険(現・三井海上火災)設立。
22(火)●東京で内職展開催、児童にも内職を奨励。
23(水)●日本損害保険、火災・海上保険の営業を開始。
24(木)●英陸軍寄贈の戦車が横浜着。
25(金)●ウィルソン米大統領、独に無条件降伏を要求。
26(土)●山形県蔵王山で中学校教師・生徒九人が凍死。
27(日)●独の実質的戦争指導者・ルーデンドルフ参謀次長が辞任。
28(月)●文相が、初めて「文展入賞者招待会」開催。
29(火)●閣議、中国の南北争乱を助長するような借款の供与などを控える方針決定。
30(水)●米の輸入税を一年間免除する緊急勅令公布。
31(木)●「スペイン風邪」で全国交通機関に欠勤者続出、臨時貨物列車の運転中止も、と新聞に。

「写真通信」

▲長野県で連続大地震(11月11日)大町付近を震源に、早朝と夕方2回の強震。マグニチュードは最大6.5。約2900戸が全半壊、町は恐怖に包まれた。

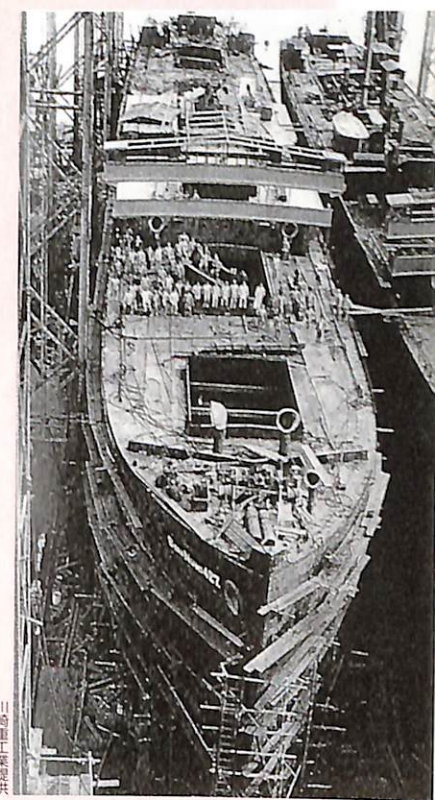
Ullstein/ユニフォト・プレス

▼第1次大戦終わる(11月11日)独代表団団長が、フランスのコンピエーヌの森の列車内で休戦協定に調印。右から二人目は連合国最高司令官・フォッシュ。

▲キール軍港で水兵叛乱(11月4日)独艦隊が立ち往生。翌日、労兵評議会が結成され、革命の波は全土に拡大。写真は、和解を訴える社民党代議士・ノスケ。

三菱自工提供

◀三菱「A型」乗用車登場(12月)神戸造船所が大正10年までに30台余を製作。出力約30馬力、伊製フィアットがモデル。まだフォードT型のタクシーが突出していた時代だった。写真はレプリカ。

川崎重工業提供

▲造船最短記録達成(11月6日)大戦景気で、川崎造船所(現・川崎重工)が貨物船量産。5857総トンの「来福丸」を30日で完成した。写真は、起工1週間後。

毎日新聞社

▶悲嘆の松井須磨子(11月5日)大正2年以来、芸術座をともに支え合ってきた島村抱月がスペイン風邪のため47歳で死亡。写真は霊前で呆然とする須磨子(32)。翌年1月、後を追って縊死した。

毎日新聞社

大正7年11月

1(金)●明治生命、台北出張所を設置。
2(土)●ニューヨークで地下鉄が脱線、九七人死亡。
3(日)●ワルシャワでポーランド共和国独立宣言。
4(月)●独のキール軍港で水兵が武装蜂起・叛乱。
5(火)●島村抱月、没。四七歳。
6(水)●高野岩三郎ら、東京で、初の本格的家計調査。
7(木)●米UP通信社社長・ロイ・ハワードが、「停戦成立」の大誤報。
8(金)●卵が一月の倍以上に値上がり、一個一〇銭の高値に、使用控える料理屋も、と新聞に。
9(土)●ベルリンでスパルタクス団などが蜂起、マクス公が皇帝退位・政権委譲宣言(ドイツ革命)。
10(日)●独のウィルヘルム二世がオランダへ逃亡。
11(月)●独と連合国が休戦協定、第一次世界大戦終了。
12(火)●日本の銀行団、仏の円建て国庫債券五〇〇〇万円を引き受け。
13(水)●ソビエト政府、独とのブレスト・リトフスク条約の無効を宣言。
14(木)●武者小路実篤ら、「新しき村」建設地を決定。
15(金)●東京市内では「スペイン風邪」による死者が多く、火葬場は遺骸の山、と新聞に。
16(土)●米国、シベリア派兵の数などで日本に抗議。
17(日)●大阪市中央公会堂(中之島公会堂)が落成。
18(月)●大阪で各種駅弁の検査。夏の値上げで二〇~三〇銭としたが、量目不足などが目立つ。
19(火)●外交調査会、国際連盟参加の基本方針決定。
20(水)●一銭銅貨不足で子どもが小遣いもらえず、駄菓子屋が売れ行き減少、と新聞に。
21(木)●独軍がアルザス・ロレーヌ地方から完全撤退。
22(金)●休戦による失業者予測は大阪だけで二万人、内務省が対策研究に入る、と新聞に。
23(土)●デモクラシーをめぐり、吉野作造と浪人会の内田良平らが公開の演説・討論会。
24(日)●生活に余裕ができ、高級品だった大島紬が流行、と新聞に。
25(月)●東京控訴院で米騒動事件の第一回公判。
26(火)●金貨を加工した装飾品が流行、と新聞に。
27(水)●米海軍機が兵員五〇人を乗せて飛行、最多人員搭乗の新記録達成。
28(木)●工場などの電力需要が多く、契約にプレミアムもつく傾向、と新聞に。
29(金)●エストニアでソビエト政権樹立。
30(土)●クリスマスプレゼント用に、四~五円以上の西洋人形が売れ行き好調、と新聞に。

▲大阪・飛田遊廓開く(12月)明治45年のミナミの大火で難波を追われた業者が、飛田新地で再起。大正末には松島と並称された。写真は昭和初期の様子。

▶講和へ、日本全権第1陣出発(12月10日)ベルサイユ宮殿で開かれる第1次大戦講和会議に出席するため、牧野伸顕らが「天洋丸」で横浜港を発った。

◀岸田劉生「麗子像」出品(12月14日)同志とともに創設した草土社展を東京で行い、「五歳之像」を出品。以降、執拗に長女を描き続け、独自の画風を確立した。写真は家族と。左端が劉生、前列中央が麗子。

▼東大新人会結成(12月7日)吉野作造を指導者に、学生や卒業生が参加。後、学生運動の中核となり、弾圧を受けて昭和4年解散。後列左から5人目・山川均、一人おいて堺利彦。

▶英国で初の普選(12月14日)選挙権を得た30歳以上の女性約600万人が投票。ドイツの懲罰を主張するロイド・ジョージ連立内閣を、大勝利に導いた。

HULTON GETTY/オリオン・プレス

大本本部提供

◀出口なお葬儀(12月6日)京都府綾部の教団本部で1ヵ月前に死去。81歳。大正初期から急速に勢力を拡大した神道系新興宗教・大本教の開祖だった。

大正7年12月

1(日)●アイスランドが独立宣言。
2(月)●列強五ヵ国、中国南北政府に和平統一を勧告。
3(火)●政府、中国・シベリアへの借款・投資を取り締まると声明。
4(水)●セルブ・クロアート・スロベーン王国樹立宣言(後のユーゴスラビア)。
5(木)●医師試験合格五四人中、女性三四人で新記録。
6(金)●大学令・改正高等学校令公布。学制全面改革。
7(土)●東京帝大で、社会運動団体「新人会」を結成。
8(日)●独潜水艦防止のために張られていたニューヨーク港の防潜網が撤去される。
9(月)●大阪商船、ロンドン航路を開設。
10(火)●空気銃での雀撃ちが流行、危険なため早急に取締りが必要、と新聞に。
11(水)●残留し安否が気づかわれていたモスクワ駐在領事・熊崎恭、動乱の露から無事帰国。
12(木)●普選問題、中学卒業程度の知識階級に選挙権の方向で政友・憲政両党が接近、と新聞に。
13(金)●北海道では、質草は贅沢品が大半、質流れも少なく、農村では客が激減、と新聞に。
14(土)●英で総選挙。女性も初めて投票。
15(日)●蚊取線香の創始者・上山彦松ら、「山彦除虫菊」を設立。
16(月)●朝鮮鉱業令改正、金・銀・鉄などの鉱産税免除。
17(火)●ラトビアでソビエト政権樹立。
18(水)●英の「タイムズ」、「スペイン風邪」で世界の死者はこの一二週間で六〇〇万人以上と報道。
19(木)●チリ陸軍のゴドイ、アンデス越え飛行に成功。
20(金)●大阪・新世界で火災、スケート場などを焼失。
21(土)●大阪毎日新聞社、株式会社に改組。
22(日)●広島の木炭製造工場が中国人労働者を採用、第一陣百人余が下関着。初の中国人集団雇用。
23(月)●吉野作造ら、思想団体「黎明会」結成。
24(火)●政府、シベリアからの大規模撤兵を決定。二万六〇〇〇人が残留。
25(水)●天皇、高等教育拡充のため一〇〇〇万円下賜。
26(木)●インド国民会議派大会、ウィルソン米大統領の民族自決論を歓迎し、インドへの適用要請。
27(金)●交通巡査の服装改正。左腕に腕章。
28(土)●薬品輸出制限令改正、阿片類のぞき全部解禁。
29(日)●参謀本部、諏訪湖畔で経緯度精密測量を実施。
30(月)●東京の火事、一回平均七戸焼失と警視庁。
31(火)●貿易収支は三億円の出超、過去四年間の合計は一四億円の出超に。

流行語 もうひとつの〃買い占め〃

「買い占め」。米騒動から出た言葉で、評判の女性や意中の女性が結婚または婚約すること。女学生がわざわざ「私、買い占められたわ」と吹聴することもあった。この場合は結婚とは関係なく、ある男性のものになることを意味した。

「人類の敵」。学生やサラリーマンの間で、気に入らない人物のこと。米騒動では、買い占めた商店の店先に「人類の敵」という貼り紙が貼られた。これが転じたもので、気に入らないものは、上司や教師から恋敵までこう呼んだ。

「別荘族」。この年は米だけでなく土地も高騰。大阪・難波では、前年、坪八五〇円だったところが一五〇〇円になったというケースもあった。その結果、サラリーマンが都心で家を持つことが困難になり、郊外へ移らざるをえなかった。彼らは甲斐性のなさへの自嘲をこめて、自分たちをこう呼んだ。

「平民」。東京、大阪に「平民食堂」が登場、原敬が首相になって「平民宰相」と呼ばれるなど、この言葉が時代のキーワードになった。それをマネて「平民酒場」など、平民という言葉が街のあちこちに現れた。

CM100年 新聞CM「天下無敵——森永ミルクキャラメル」（森永製菓）

◀人気力士・太刀山の手形を使用。優れたアイキャッチャー広告として評判となる。

食 カツカレーは屋台が元祖

東京・合羽橋に近い国際通りのガラス湯の角に、洋食の屋台を出していた河野金太郎さんは、大正七年のある日、なじみの客から「おやじ、飯の上にカツレツをのせてカレーをかけてよ」という注文を受けた。

その言葉をヒントに、客が食べやすいように、皿ではなく丼にごはんをよそい、その上に切ったカツレツをのせて、さらにその上からカレーをかけたものを考案、店の名前から〃河金丼〃と命名した。これがカツカレーの始まりで、河金は現在も下谷で盛業中である。

（小菅桂子『近代日本食文化年表』）

社会 恩給日本一の山本権兵衛 支給額は年に四二五〇円

国庫の恩給総額は文官五四六万円（三万一三〇〇人）、武官二〇八六万円（一二万八四〇〇人）で、恩給のほとんど全部を軍人に取られているといってよい。その中で日本一の恩給取りは誰かと言えば、山本権兵衛伯で年四二五〇円。これに次ぐのは大隈重信侯の三一五〇円、第三位が瓜生外吉将軍の二七〇〇円である。この三人のうち山本、瓜生の両氏は勲章の年金も莫大な額であるから、遊んでいても大金が懐中に飛びこんでくるわけである。

（「東京朝日新聞」一〇月三日）

家庭 夜、下水に流す人も 屎尿処理が難問に

屎尿処理問題が大きくクローズアップされたのは大正七年末である。明治二八年頃、一ヵ年おとな一人分三五銭、子ども一七・五銭だった、屎尿の〃汲ませ料〃は、大正四年には半分から三分の一に下落、そしてこの年には山の手では一ヵ月二銭を取って汲み取らせていたものの、都心の京橋、日本橋では逆に農民に〃下掃除料〃を払うようになった。それでも来てくれないので、困った家庭では便ツボの底を破って地中に吸いこませたり、夜中、ひそかに表の下水へ流した。

これは都市の膨張による農民の遠隔化、耕地の減少、そして好景気による汲み取り労働力の不足などの現れであった。

（『東京一〇〇年史』第四巻）

「歴史写真」

▶この年、学習院学制が改正になり、女学部を廃し、九月一一日、女子学習院開校。

©大宮市立漫画会館

▶「時事漫画」に収録された北沢楽天画「サラリーマンの地獄」。サラリーマンの悲哀は、当時も現代と同じ……。

三面記事 気っぷが命！ 馬賊芸者

▶この頃、外国人や女性の間で柔道が流行した。写真はロシア人が開いた道場。右から二番目が師範の相川倉子さん。

「歴史写真」

博多芸者のことを、鼻息が荒いという意味で「馬賊芸者」と言う。これが一般に広がったのは大正七年であった。この年四月一〇日から一ヵ月間、博多で九州沖縄物産共進会が開かれ、水券（検番）でも「婆族芸者」という茶店を出した。その頃、水券のおはまとおえんという二人の芸妓が、満州（中国東北部）在住のひいき客をたよって、満州旅行を堪能して帰ったばかりだった。二人は満州帰りを看板に鼻息荒く、気にくわぬ客をやりこめるなど、その行動がかえって人気を呼び、実業家連から「馬賊芸者」と呼ばれるようになった。

水券でもこれを売り物にし、茶菓を供し、客が釣り銭を要求しても「ケチケチしんしゃんな」と言って渡さなかった。この接待ぶりが評判を呼んだのだ。当時、満州の荒野で馬賊になる夢を見ていた若者も多かったが、芸者の気っぷは彼らの心情にも一致した。

（井上精三『博多大正世相史』）

はやり歌

宵待草

作詞 竹久夢二
作曲 多忠亮

待てどくらせど来ぬひとを
宵待草のやるせなさ
今宵は月もでぬそうな

新金色夜叉

作詞 宮島郁芳
作曲 後藤紫雲

熱海の海岸散歩する
貫一お宮の二人連れ
共に歩むも今日限り
共に語るも今日限り

僕が学校卒るまで
何故に宮さん待たなんだ
夫に不足が出来たのか
さもなきゃお金がほしいのか

夫に不足はないけれど
あなたを洋行さすがため
父母の教えに従って
富山一家に嫁かん

如何に宮さん貫一は
これでも一個の男子なり
理想の妻を金に替え
洋行するよな僕じゃない

宮さん必ず来年の
今月今夜の此の月は
僕の涙で曇らして
見せるよ男子の意気地から

ダイヤモンドに目がくれて
乗ってはならぬ玉の輿
人は身持ちが第一よ
お金はこの世のまわり物

▶感傷的・抒情的画風で人気の画家・竹久夢二が挿絵とともに発表した詩に、いかにも大正時代の香りを漂わせる曲がついて、大流行した。写真は楽譜表紙。

竹久夢二美術館提供

熱海市役所提供

▲芝居や映画の「金色夜叉」ブームに乗って大いに歌われた。写真は熱海の観光名所となっている「お宮の松」（左）と、小栗風葉の句が刻まれた「金色夜叉の碑」。

海外 今や世界語になった〃ナリキン〃

「成金」という日本語は、今や英米諸国でも原語のまさかんに使用され、まさに世界語たらんとする、素晴らしい勢いを示している。これにつき在留の一米人にたずねたところ、英語には成金という意味を表す言葉はまったくない。ことに米国の如きはすべての富家がおおむね一代身上で、富豪といえば全部成金同然であるから、特ににわか財産家に対する特殊の名称はない。その意味を聞いて、にわか財産家の謂として、成金という語は実にまとを射ていると。

（「輪友」一〇月号）

犯罪 大親分のねらい撃ち 仕立屋銀次も再び逮捕

大正三年頃より、またまたスリや万引、空き巣などの被害が増加してきたので、警視庁捜査係で調査すると、以前の大検挙で入獄したスリなどが、出獄後、大阪・名古屋の親分連と結託して大がかりな悪事を働いていることがわかった。そこで再び大検挙に着手した結果、東京のスリの大親分・仕立屋銀次（五三）をはじめ、小石川区の油屋留こと高山常次郎（四二）、大阪の親分・春アンこと佐々木春吉（五一）ほか一一人のスリ、万引、空き巣の親分を検挙、子分でも銀次のふところ刀と言われる華族の新助（四〇）、伯爵の増太郎（四八）など四〇人余を捕えた。彼らのこのたびの稼ぎは一〇万円にもおよび、中には立派な下駄商、酒屋、薪炭商もあり、鎌倉に別荘を持っているものもいた。

（「東京朝日新聞」一一月二四日）

▶四月から国定国語教科書として使用された「尋常小学国語読本」の第一学年用。この年から毎年一学年ずつ編纂された。

◀一〇月九日、東京・小名木川で、セメント二に対し軽石五を混合した軽石混合船「源丸」が進水し、話題を集めた。

この年の初もの 女性ドライバーの第一号・渡辺はま

●**ゴムの野球ボール** 鈴鹿商店から発売。これをきっかけに、少年野球が広がる。

●**空調設備** 東京モスリン亀戸工場に国産第一号が設置される。

●**シクラメン** 岐阜県の伊藤孝重が、ドイツから種や資料を取り寄せて栽培を始める。一〇年後、安定生産に成功。

●**遺伝学** 東京帝大に、藤井健次郎による初の遺伝学講座が誕生。

世界の動き

反攻を期したドイツ軍も病人続出で壊滅
世界中で死者2500万人の猛威
「スペイン風邪」、第1次大戦を終結させる！

▲「スペイン風邪」の流行で、アメリカ・マサチューセッツ州ブルックリンの病院の庭が米軍の駐屯地となった。看護婦も予防のために“重装備”。 CORBIS・BETTMANN／PPS

一九一八年、全世界で「スペイン風邪」の猛威が荒れ狂った。感染者は六億人にもおよび二五〇〇万人もの死者が出たのである。第一次世界大戦中のヨーロッパから拡がった“病魔”は全世界に波及、前後三回にわたる流行で日本でも三八万人余が命を奪われた。それは感染症の歴史上、類例のない異常事態であった。

▲全員大きなマスクをつけた街路清掃員を査察する担当官。シカゴで。 CORBIS・BETTMANN／PPS

「マルヌでの我々の敗走はインフルエンザのせいだ」

第一次世界大戦勃発から五年目、パリ攻防をめぐる西部戦線に、異常な事態が巻き起こった。

一九一八年七月——緒戦で優勢を誇ったドイツ軍も、英仏軍の反攻の前に前進をはばまれ戦況は膠着状態におちいった。七月一七日、ルーデンドルフ・ドイツ軍参謀総長は、パリまで八〇キロのマルヌ川に侵攻し、パリ攻略態勢を整えた。この時、ドイツ軍に大混乱が生じたのである。

「スペイン風邪」と呼ばれる奇妙な風邪に感染した兵士たちが、次々に倒れだしたのだ。激しい咳と高熱、嘔吐や出血をするものが相次ぎ、死者も続出した。そのため、ドイツ軍の戦闘能力は一気に消滅し、戦争の遂行が不可能になった。その間の戦闘を含めた損害は、捕虜三万人、死者七万人に達していた。そして徐々に前線から後退し始めたドイツ軍は、九月四日、ついにマルヌ川の侵攻地帯から約一〇〇〇キロ離れたポーランド南部の工業都市、ヒンデンブルク（現・ザブジェ）まで兵を引き、その後の戦局を立て直すことができないまま敗退。一一月一一日、第一次世界大戦は終結する。

ルーデンドルフは、後にこう語った。

「いまいましいことに、マルヌでの我々の敗走は、けっして新しく参戦してきたアメリカ軍によるものではない。実は、流行していたインフルエンザに兵士がことごとくやられ、弱りはてた身体で武器を運ぶこともままならなかったのだ」

歴史上、第一次大戦は、アメリカの参戦と革命によるロシアの撤退により終結したと言われているが、毒ガス使用や無制限潜水艦戦の立て役者、ルーデンドルフは、敗戦の原因はインフルエンザだったと告白したのである。

「普通、インフルエンザは、免疫力の弱い幼児や慢性疾患を持つお年寄りが罹患しやすいのですが、この時は、二〇歳から四〇歳という働きざかりが感染したのが大きな特徴で、屈強な兵士たちもひとたまりもなかったのです」

こう語るのは、国立感染症研究所ウイルス第一部・呼吸器系ウイルス室室長の根路銘国昭氏である。

事実、ヨーロッパ戦線での「スペイン風邪」の猛威はすさまじかった。連合国に対する反攻の時期と重なったドイツ軍の被害は甚大であったが、それは連合国兵士とて事情は同じである。ちなみに、終戦までのアメリカ軍の戦死者は一二万四〇〇〇人、そのうち実に八〇パーセントがインフルエンザで戦病死した。

死者は戦闘員に限らなかった。世界中でその数は約二五〇〇万人とも言われ、ドイツ国内で約二三万人、イギリス二二万人、アメリカでは五五万人を超える死亡者を出したのである。

日本で死者三八万人 人口の〇・七パーセントに該当

「スペイン風邪」は全地球規模での、ウイルスによる人類への“宣戦布告”でもあった。このインフルエンザの発生は一九一八年の春頃、発生地は、アメリカと中国の可能性が高かった。当時のヨーロッパには軍隊ばかりでなく、中国などさまざまな国から労働者が集められていたため、彼らがウイルスの“運び屋”とも

なったのだ。その年、アメリカおよび中国からはおもに海路でフランス戦線、そしてスペインに伝染。五月にはアルフォンソ・スペイン国王や閣僚たちも次々に感染、その後イギリスに伝播し、「スペイン風邪」と名づけられたのである。

「スペイン風邪」は、日本も直撃した。

大正一三年三月に発行された内務省衛生局による『流行性感冒』には、「全世界を風靡したる流行性感冒は、大正七年（一九一八）秋以来わが国に波及し、大正十年の春季にわたり三回流行し、総計二千三百八十余万人の患者と約三十八万八千余人の死者を出し、疫学上まれに見る惨状を呈した」と記されている。

事実、それはもう、惨状と言うほかない。大正七年の秋に入ると小・中学校の休校は全国で相次ぎ、たとえば高知の歩兵第四四連隊では、二千余人の兵士のほとんどが入院しており、訓練に参加できたのは三〇〇人というありさまだった（『時事通信』大正七年一〇月二九日）。

鉄道省九州管理局内では、全従業員二万六〇〇〇人中、風邪による欠勤者が一九〇〇〇人、中部管理局は二万九〇〇〇人中、二八〇〇人にもおよび、運行本数も激減、経済活動は大きな影響を受けた。

〝異常事〟も続出した。岡山では、熱さまし用の氷が、病院などからの注文に応じきれず、まったくの品不足になった。また、死亡者の激増で、東京市内の四つの火葬場には遺体が滞留、近郷や近県に親戚か知人がいる人はお断りという札も立つほどであった。そのため遺体を地方に輸送するため、上野駅には毎日、十数件の遺体搬送の依頼があるなど、異常な光景が各地に出現した。

▶「スペイン風邪」は日本でも大流行し、警官もマスク姿。

劇作家として活躍した島村抱月（四七）も、犠牲者の一人であった。大正七年一一月五日、東京・明治座の楽屋で突然倒れ、高熱を出しながら二、三時間で息を引きとった。当時の日本の人口は約五六〇〇万人、「スペイン風邪」による死者は、その〇・七％にもおよんだのである。

一九九七年末、香港で新型インフルエンザが流行し、約一五〇万羽の鶏を処分、かろうじて蔓延を食い止めたのは記憶に新しいが、今後、はたして世界的な大流行が再来することはないのか。

先の根路銘氏は、「インフルエンザ・ウイルスは、消滅しません。『スペイン風邪』のウイルスは、豚にひそんでいることがその後の研究で明らかになりました。ウイルス自体としてはあまりおそろしくはないのですが、ほかの細菌と合併症を起こし、再び猛威を振るう可能性は否定できません。予防ワクチン整備がとても大切です」と語っている。

外から見たNIPPON

登山家・ウェストンが上高地で見た〝大衆化とモラル〟の関係

佐伯 修

▶槇有恒、松方三郎らと晩年まで親交。

「日本人の見方からして――登山は、十九世紀の終わり近くまで――驚くべきことを成し遂げたあの聖者たち、つまり弘法大師や役小角、そして彼らの足跡をその後一千年のあいだ跡づけた巡礼登拝者たちの時代の登山と、非常に似たままだった。巡礼クラブの機構や行について、私は、既に出した日本アルプスについての本のなかで若干書いておいた。けれども、その本を書いてから二十年のあいだに、一つの大きな意味深い変化が起った。一九〇五年日本山岳会（日本の登山クラブ）が創設され、その会員には主に有識階層が集まっており、会員は今では七百五十人を越えている。一方、このクラブは、一つの大きな、そしてその数が増している登山家団体という家族員の親となってもいる。と言うのは、同じ種類の沢山のもっと小さなクラブが、日本の至る所で生まれて来ているからである。これらのクラブは、中部日本の主な山勝ちの諸国や、そして東京、京都の大学や高等学校を大体代表している」（岡村精一訳）

この年、英国の宣教師で登山家のウォルター・ウェストン（一八六一～一九四〇）は、日本についての二冊目の著書『極東の散歩道』を出版した。右はその一節である。

ウェストンも述べているように、この時期は、日本にスポーツとしての近代登山が普及しつつあり、その推進者となったのは、小島烏水や志賀重昂、そして、ほかならぬウェストン自身だった。

ウェストンの日本滞在は、明治二一～二八年、明治三五～三八年、明治四四～大正四年の三度だったが、その間に日本アルプスのほとんどの山に登ったという。若き日に歩いたスイス・アルプスを連想させる山山に魅せられたウェストンは、明治二九年に英国で出版した、引用文中でも触れた著書『日本アルプスの登山と探検』で、日本アルプスを世界に知らしめた。ちなみに「日本アルプス」とは、明治一四年、英国の冶金技師、W・ガウランドの命名による。

このように、近代登山の推進者で、キリスト教宣教師でありながら、ウェストンは、修験道の行者や山岳信仰の講中の人々ら、日本古来の登山者に大きな関心を寄せた。

また、登山普及にともなう、観光登山のエスカレートによる上高地などの俗化、登山者のモラル低下を憂え、彼は言う。「宴会の騒がしさ、廃物のきたなさ、醜さ、温泉のまわりに投げ棄てられた空缶の山は、峰々が蔭を落している谷川の威厳と安息を侮辱するものである」

往きて還らぬ

毎日新聞社
▲1月22日 吉田東伍(53)
歴史地理学者、元早大教授。『大日本地名辞書』(11巻)を独力で完成。能楽にも造詣が深く「世阿弥十六部集」を校注。

毎日新聞社
▲1月31日 朝吹英二(68)
明治期の実業家。鐘淵紡績専務、王子製紙会長など、三井系諸企業の重職を歴任。翻訳家の朝吹登水子は孫娘。

▲2月4日 秋山真之(49)
明治から大正期の海軍軍人。中将。日露戦争の日本海海戦で名電文「本日天気晴朗ナレドモ波高シ」を起草。

▲2月6日 グスタフ・クリムト(55)
オーストリアの画家。エロチシズムと退廃感に満ちた作品で有名。1897年「分離派」結成。代表作「接吻」など。

▲2月10日 蜂須賀茂韶(71)
阿波徳島藩最後の藩主で、維新時、版籍奉還を強く主張した。東京府知事、貴族院議長、文相などを歴任。

▲3月25日 C・ドビュッシー(55)
フランスの作曲家。色彩的響きを持った印象主義音楽を確立。代表作に「海」「牧神の午後への前奏曲」など。

▲5月10日 3代目古今亭志ん生(54)
落語家。初めは声色で売り出し、雷門助六から明治43年3代目襲名。助六時代、大入りで寄席の2階が落ちたという。

▲5月27日 大砲万右衛門(48)
明治期の力士。明治25年入幕、34年横綱。巨体を使った突っ張りで人気力士に。引退後、年寄待乳山襲名。

▲5月30日 プレハーノフ(61)
ロシアの革命家。1900～03年レーニンと「イスクラ」紙を編集。『社会主義と政治闘争』など著書多数。

▲9月26日 G・ジンメル(60)
ドイツの哲学者。社会学者。〝生の哲学〟者として著名。元シュトラスブルク大教授。著書に『社会的分化論』など。

オリオン・プレス
▲10月31日 エゴン・シーレ(28)
オーストリアの画家。G・クリムトに師事。1909年「新芸術家集団」結成。スペイン風邪で急死。代表作に「自画像」。

▶11月5日 島村抱月(47)
明治から大正期の劇作家で、近代劇の先駆者。大正二年松井須磨子らと芸術座を結成、「人形の家」などを上演。

毎日新聞社
▲11月6日 出口なお(81)
宗教家。明治25年大本教を開教。31年上田喜三郎(出口王仁三郎)と出会い、33年娘婿とし、教団の基礎を築いた。

週刊 YEAR BOOK 日録20世紀

第79号 9月14日(月)発売 定価560円
毎週火曜日発売 講談社 本体533円

1919［大正8年］

●特集
「三・一」「五・四」運動 ソウルで北京で"抗日"の叫び！／徳島の収容所に花開いたドイツ文化 独軍捕虜一〇〇〇人の「板東の思い出」／「浅草オペラ」熱狂記！ 人気女優・高木徳子の"絶頂と死"／ベルサイユ講和条約成立！ 第一次世界大戦終結とドイツの"屈辱"

●ニュース・ファイル
フォト＋日録で再現する365日…松井須磨子、島村抱月の後を追い自殺(1月5日)／独・コミンテルン創立大会(3月2日)／ワイマールにバウハウス創設(4月25日)／皇太子裕仁親王、成年式(5月7日)／コカ・コーラ初輸入(6月)／神戸・川崎造船所職工がサボタージュ(9月18日)／戦艦「長門」進水(11月9日)

●人物クローズアップ
北一輝、「国家改造案原理大綱」執筆

●決定的瞬間
「スパルタクス団」蜂起失敗！

●美の出会い
竹久夢二、代表作「黒船屋」を描く

●女たちの肖像…国際歌手・原信子の渡米と野望／**勝者・敗者**…"打倒一高"に燃えた慶応・小野の右腕／**証言・あの日この日**…佐藤春夫、大杉栄／**「現場」を歩く**…天王寺と大原社会問題研究所／**20世紀博物館**…榛東村耳飾り館(群馬)／**外から見たNIPPON**…「三・一独立宣言書」と起草者・崔南善

●ベストセラー…「改造」創刊／**スターと名場面**…「イントレランス」公開／**モノ語り'19**…「カルピス」「キリン黒ビール」

■既刊好評発売中（既刊78冊！1920・1930・1940・1950・1960・1970・1980年代がそろいました）

一九二〇年代

第62号1921［大正10年］ 第63号1922［大正11年］ 第28号1923［大正12年］ 第64号1924［大正13年］ 第65号1925［大正14年］ 第66号1926［昭和元年］ 第67号1927［昭和2年］ 第68号1928［昭和3年］ 第69号1929［昭和4年］ 第70号1930［昭和5年］

一九三〇年代

第43号1931［昭和6年］ 第44号1932［昭和7年］ 第45号1933［昭和8年］ 第46号1934［昭和9年］ 第47号1935［昭和10年］ 第48号1936［昭和11年］ 第49号1937［昭和12年］ 第50号1938［昭和13年］ 第51号1939［昭和14年］ 第52号1940［昭和15年］

一九四〇年代

第19号1941［昭和16年］ 第20号1942［昭和17年］ 第21号1943［昭和18年］ 第22号1944［昭和19年］ 第3号1945［昭和20年］ 第23号1946［昭和21年］ 第24号1947［昭和22年］ 第25号1948［昭和23年］ 第26号1949［昭和24年］ 第27号1950［昭和25年］

一九一〇年代

第73号1913［大正2年］ 第74号1914［大正3年］ 第75号1915［大正4年］ 第76号1916［大正5年］ 最新刊 第77号1917［大正6年］

■今後の刊行予定

▶第80号1920［大正9年］9月22日発売
「宮中某重大事件」の暗闘！●惨劇「尼港事件」●「普選運動」最高潮！●大リーグ「ブラックソックス事件」

▶第81号1901［明治34年］9月29日発売
田中正造、天皇に直訴状！●与謝野晶子、「みだれ髪」刊行●明治のタバコ戦争！●第1回ノーベル賞

▶第82号1902［明治35年］10月6日発売
大谷光瑞、中央アジア探検！●八甲田山「死の彷徨」●正岡子規「仰臥漫録」の日々●日英同盟締結！

▶第83号1903［明治36年］10月13日発売
ライト兄弟、世紀の12秒間！●藤村操の"明治の青春"●「食道楽」のレシピ700●大阪「内国勧業博」

▶第84号1904［明治37年］10月20日発売
旅順攻略戦136日●日本軍"脚気大論争"●日本初の百貨店「三越」誕生！●サイ・ヤング、初の完全試合

▶第85号1905［明治38年］10月27日発売
日本海海戦の大勝利！●「日比谷焼き打ち事件」●漱石「吾輩は猫である」●戦艦「ポチョムキン」の叛乱

「日録20世紀・スペシャル」刊行決定！

1999年2月23日(火)刊行開始(本編100号終了後すぐ)。 全20巻！

ミニ事典
1918年のキーワード

「平和のための一四ヵ条」
ウィルソン米大統領が、一月八日に議会で行った演説の題。米国が第一次大戦に参戦する意義を内外に明らかにし、国際連盟の提唱、秘密外交の排撃、軍縮、少数民族の保護と原状回復など、グローバルな視点を持った格調高い演説だった。後、パンフレットが全世界に配付され、連合国の戦意昂揚、同盟国の意気阻喪に一役買った。

▲1月8日、議会で「14ヵ条」について演説する、ウィルソン大統領(右方の立ち姿)。 ROGER-VIOLLET ユニフォト・プレス

ブレスト・リトフスク条約
ソビエトがドイツおよびその同盟国と、三月三日、東ポーランドのブレスト・リトフスクで結んだ講和条約。成立まもないソビエトは二月の独軍の大進撃で動揺、同盟国側の主張を受け入れて調印。ロシア帝国が二〇〇年の間に獲得した領土を、すべて失った。またこの条約で東部戦線の砲火が止み、独軍は兵力を西部戦線に移すことができた。

戦時利得税
大戦景気で得た利益への賦課を目的とした臨時税。三月二三日、戦時利得税法公布により実施。所得税を賦課される法人所得、個人の給料や年給・恩給などをのぞいた個人の利得、船舶・鉱業の権利および設備の売却で得られた個人の利益を対象とし、法人は平時事業年度の、個人は大正二年以前二年間の平均所得額のそれぞれ一・二倍の超過利得に対し、法人が二〇、個人が一五パーセントの比例税率を賦課された。翌年廃止。

パリ砲
ドイツの兵器メーカー、クルップ社が開発した長距離砲の俗称。射程距離一〇〇キロ以上と言われ、三月二四日に初めてパリに向けて二四発の弾丸が発射され、約四時間で一二五人の死者を出した。六月にもパリは六五発の砲弾を撃ちこまれ、三月から八月までの間に砲撃による死者は二五〇人、負傷者は六二〇人もの多数にのぼった。

▲「パリ砲」によって破壊された、パリ・デューヌ通りの惨状。 「歴史写真」

大正赤心団
ロシア革命後の労働運動に対抗するため組織された、皇室中心主義を標榜する右翼団体。森憲二が四月一〇日、博徒・土建業者を中心に設立。東京・深川の自宅に事務所をおいた。森は立憲政友会の野田卯太郎・武藤金吉と交友があり、大正赤心団は政友会の院外団的存在となった。昭和三年の「済南事件」の際、飛行機で東京市中に対中国強硬論のビラを散布、名を知られたが、昭和一〇年頃消滅した。

日米船鉄交換契約
第一次大戦中、日米両国が相互に、船舶は日本、鉄材は米国が供給することを約束し合った契約。米国は大戦参戦とともに鉄材輸出禁止令を発し、苦境におちいった日本の造船業界は、関連業者の支援で米国に解禁を請願。四月二二日、鈴木商店・金子直吉の粘り強い交渉のすえ、日本船一二万七八〇〇重量トンに対し、米国は同量の鉄を供給するという第一次契約締結に成功。五月には第二次契約も結ばれた。

平民宰相
「超然内閣」と言われた寺内正毅内閣の後を継いで、九月二九日に立憲政友会を率いて内閣を組織した原敬のこと。薩長藩閥や公家出身でなく、衆院に議席のある日本初の総理大臣だったため、「平民宰相」と呼ばれた。その政権は三年一ヵ月の長期にわたったが、末期には普選拒否、汚職事件の頻発により、「平民宰相」のイメージをそこなった。大正一〇年一一月、原は暴漢に胸を刺されて死亡。六五歳だった。

▲政党内閣誕生を祝う祝賀会での原敬首相(前列中央)。

スパルタクス団
第一次大戦中に、ドイツ社会民主党内に作られた極左グループ。カール・リープクネヒト、ローザ・ルクセンブルクらが中心になり、グループ名のいわれとなる非合法誌「スパルタクス書簡」を発行。一一月九日のドイツ革命ではベルリンの労働者を率いて武装蜂起したが、翌年一月、ドイツ共産党を創立して社民党のエーベルト政権の転覆をはかり、主要幹部が殺害された。

ハプスブルク家
中世以来、ヨーロッパに支配者を送り出してきた名門。一二七三年、ルドルフ一世が神聖ローマ皇帝となって以来、盛期を迎え、一六世紀にはスペインを含む同家による「世界帝国」を実現。しかしナポレオン戦争以降、衰退を続け、第一次大戦で同盟国側についたオーストリア・ハンガリー帝国の皇帝・カール一世が、一一月一三日、すべての権力を放棄、ついに七世紀にわたる王家の歴史は終わった。

大学令
官立・公立・私立各大学を規定する最初の基本法令。一二月六日公布、翌年四月一日施行。私学関係者の強い批判にこたえ、それまで法制上の大学は帝国大学に限るとしていた規定を改め、国家的性格を強調しながらも官公私を問わないことを明示。また大学の修業年限は三年(医学部のみ四年)、大学予科は三年または二年とすることなどを定め、日本の大学制度の基盤を形成した。昭和二二年、学校教育法施行により廃止。

黎明会
民本主義思想家・吉野作造らが一二月二三日に結成した啓蒙主義団体。大阪朝日新聞筆禍事件に代表される、米騒動後の反動攻勢への危機感から生まれた。普通選挙の実施、治安警察法第一七条の撤廃、対中国・朝鮮政策の見直しなどを掲げ、支持者をふやした。社会主義思想の台頭により衰えたが、解散時には会員四二人を数え、吉野のほか新渡戸稲造、大山郁夫、与謝野晶子、小泉信三、阿部次郎、森戸辰男らそうそうたる名がつらなった。

週刊YEAR BOOK／日録20世紀 1918
CONTENTS

●編集
講談社総合編纂局
アート・ディレクター 山口至剛
表紙デザイン 山口至剛デザイン室(茂村巨利)+渡邉裕
本文レイアウト デザインオフィス八起き
編集協力 有エービーシープレス 株カマル社 株コミュニケーションハウス・ケースリー シド・プロ 有マックス 有マライカ
飯田守 小原伸夫 鍵和田良輔 菊地美優貴 小松邦宏 張替政展
藤森雅弘 森邦久 結城順一 吉田忠正

●写真協力
石井行昌 井本三夫 大畑俊男 尾形光彦 甲斐信枝 河合能平
児玉数夫 五島祐次郎 但馬一憲 平山亮
Ullstein オリオン・プレス CORBIS-BETTMANN 中日新聞社 西日本新聞社 HULTON GETTY
PPS 平凡社 Popperfoto 毎日新聞社 マツダ映画社 ユニフォト・プレス ROGER-VIOLLET
川崎重工業 近畿日本鉄道 中村屋 三菱自工
熱海市役所 大宮市立漫画会館 大本本部 大宅壮一文庫 京都府立総合資料館 産業技術記念館 三康図書館 セキグチ・ドールハウス 竹久夢二美術館 東京大学法学部附属明治新聞雑誌文庫 那須オルゴール美術館 滑川文化センター 日仏会館図書室 日本カメラ博物館 日本近代文学館 パイロット筆記具資料館 防衛研究所図書館 松下電器歴史館

HAVAS

"カード派"札入れ

Cardlet ミネルバ

Cardlet®

カードレット

15枚のカードをスリムに収納 ———

従来の札入れは内側にカード段が付いているだけなので、少量のカードしか収納できないのが現状です。しかし今はカードの時代。
多種多様のカードを必携しなければなりません。そこで考え出されたのが"カードレット"。
札入れに差込式のビニール製2段式カードホルダーをとり入れることによって計15枚のカードをスリムに収納することが可能になりました。
サイズも11cm×13.5cmと非常にコンパクト。スーツの内ポケットやスラックスのポケットに入れてお使い頂けます。

●Cardlet®〈カードレット〉 11cm×13.5cm
ミネルバ ¥10,000(税抜) col.ブラック、ブラウン　ウェルチ ¥13,000(税抜) col.ブラック、ブラウン

［ハバス ショップ］
新宿髙島屋9F 文具売場　Tel.／Fax.03-5361-1594
赤坂東急プラザ2F　Tel.／Fax.03-3595-0558
（地下鉄「赤坂見附」、「永田町」より1分）

"Having Goods"の提案

バッグや革小物といった収納用品が大衆に広く普及したのは工業化社会が到来した今からおよそ80年前。そして現在 ———。
電話やパソコンの携帯化など、身の回りの持ち物に大きな変化が現われてきている一方で、依然としてそのクラシカルなスタイルを踏襲し続けている収納用品に、不都合を感じるケースがではじめています。今、バッグや革小物といった収納用品に求められているのは、"機能・軽量・コンパクト"。私達は従来の型にはとらわれず、機能性と使いやすさを最優先に考えた革新的な収納用品を"Having Goods"というくくりで、世の中に提案していきたいと考えています。『時代に対応した多機能型収納用品の提案』 これがハバスのテーマです。

HAVAS
チャンドラー株式会社
〒162-0824 東京都新宿区揚場町2-14
Tel.03-3267-3971 Fax.03-3267-5095

第2巻第35号 通巻78号
雑誌 23714-9/22　T1123714090569
Ⓛ-2001/1/1

印刷 凸版印刷株式会社　製本 大村製本株式会社